令和４年度
東金市立保育所・認定こども園
自己評価
（所・園内研修まとめ）

全所・園共通テーマ

「生きる力を育む」

写真:第２保育所 「光の不思議」

もくじ

保育理念・方針・めざす子ども像　・・・・・・・・・・・・・・・　１

令和４年度　教育及び保育の内容に関する全体的な計画　・・・　２

所内研修まとめ（第１保育所）　・・・・・・・・・・・・・・・・　７

「個性を認める保育」～共に過ごす中で生まれる関わり～

所内研修まとめ（第２保育所）　・・・・・・・・・・・・・・・　１３

「子どもの育ちを保障する」
～ドキュメンテーションから探るやってみようと思える環境作り～

所内研修まとめ（第３保育所）　・・・・・・・・・・・・・・・　１９

「行事や様々な活動を通して、
子どもが主体性を発揮できる保育と保育者との関わりを考える」

園内研修まとめ（豊成こども園）　・・・・・・・・・・・・・・　２５

「異年齢で遊ぶ環境とは」

園内研修まとめ（福岡こども園）　・・・・・・・・・・・・・・　３１

「話そう・聞こう・伝え合おう～ごっこあそびを通して～」

各所・園の資料は、概ね次のような構成となっています。

○表紙

○所・園のサブテーマ（昨年度の反省・子どもの姿・保育者の願い・仮説・手立て・研修方法等）

○所・園内研修の経過

○外部講師による教育・保育の質の向上のための巡回指導を受けての課題

○所・園内研修の成果と課題

○自己評価に関する観点からの評価

【1】保育の実施運営・体制全般等に係る観点からの評価

【2】計画に基づく評価

【3】家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点からの評価

○所・園内研修の総まとめ

○所・園内研修の事例集　※事例集は別冊とし、非公表としています。

保育理念

乳幼児期が人格形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、子どもたちとの信頼関係を十分に築き、健やかな成長が図れるよう家庭や地域と連携し、より良い教育・保育の環境を創造する。

教育・保育目標

「心豊かにたくましく、未来を生きる力」を育む

方　針

○「生活」と「遊び」を通した学びにより様々な体験を重ね、豊かな感性や創造性、好奇心を育てます。
○子どもたち一人一人の個性を大切にし、そのよさをさらに高め、子どもたちが自分を伸びやかに発揮できるよう努めます。
○同年齢、異年齢の友達とのかかわりの中で、お互いを大切に思いやる心を育てます。
○子どもたちが健康で安全に生活できる環境を整え、丈夫な体づくりのための食育の推進や基本的な生活習慣・態度を身に付けられるよう支援します。
○子どもたちが健やかに成長していけるよう、家庭や地域との連携を密にし、共通理解を図ります。
○地域における子育ての支援のために、乳幼児の教育・保育に関する相談に応じ、助言するなどの社会的役割を果たします。
○一人一人の特別なニーズに応じた適切な支援を行うとともに、集団活動を通して、全体的な発達を促します。
○学校教育への円滑な接続のための基礎を培います。

めざす子ども像

＊仲良く元気に遊べる子・・・・身近な人と十分に関わり、元気に体を動かすことを喜ぶ。
＊思いやりのあるやさしい子・・思いを伝え合い、相手の気持ちに気付く。
＊自分で考えて行動する子・・・なぜ、どうしてという気持ちをもち、試し、やってみる。
＊あきらめないで挑戦する子・・見通しをもって活動に取り組み、最後までやり通そうとする。

～「東金市立幼稚園・保育所・認定こども園共通カリキュラム」より～

東金市立第1保育所　　令和4年度　教育及び保育の内容に関する全体的な計画　（編集作成：所長　小川　まゆみ）　　令和３年４月１日現在

基本理念	乳幼児期が人格形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、子どもたちとの信頼関係を十分に築き、健やかな成長が図れるよう家庭や地域と連携し、より良い教育･保育の環境を創造する。
教育･保育目標	「心豊かにたくましく、未来を生きる力」を育む
めざす子ども像	○仲良く元気に遊べる子・・・身近な人と十分に関わり、元気に体を動かすことを喜ぶ。 ○思いやりのあるやさしい子・・・思いを伝え合い、相手の気持ちに気付く。 ○自分で考えて行動する子・・・なぜ、どうしてという気持ちをもち、試し、やってみる。 ○あきらめないで挑戦する子・・・見通しをもって活動に取り組み、最後までやり通そうとする。
第1保育所の教育・保育目標	「個性を認める保育」～共に過ごす中で生まれる関わり～

子どもの教育及び保育目標	
０歳児	一人一人の安定した生活リズムで気持ちよく過ごす。
１歳児	安心できる保育者との関係の下で、自分でしようとする気持ちが芽生える。
２歳児（満３歳児）	基本的な運動機能が発達し、身の回りのことを自分でしようとする。
３歳児	基本的な生活習慣を身に付け、保育者や友達と関わりながら遊ぶ楽しさを知る。
４歳児	友達との関わりを深めながら、いろいろな活動に取り組む楽しさを味わう。
５歳児	生活や遊びの中で共通の目的を持って友達と協力しながら活動し、達成感や充実感を味わう。

●幼稚園：基本保育時間→9：00～14：00　　＊預かり保育　14:00～16：30
●保育所：基本保育時間→7：30（8：00）～18：30（16:00）　　＊延長保育時間→7:00～、～19:00
●認定こども園：基本保育時間→幼稚園的利用は幼稚園と、保育所的利用は保育所と同じ。
＊2歳児クラスでは、満3歳未満と満3歳以上の子どもが混在する中で一体的に教育及び保育が行われるという観点から、実際の教育及び保育の現場においては月齢差を考慮した関わりと見通しを持って子どもと接する。

行事のねらい

日々の園生活の連続性のなかで、発達等園児の実態に応じて必要なものを行事として行い、行事の運営観点を以下の5項目に分類し実施する。
①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割　　②親子の触れ合いを促す役割
③伝統文化を知らせる役割　　④健康と安全を守る役割　　⑤保育を厚くする役割

特に配慮すべき事項

一人一人を大切にする教育・保育	発達の連続性に配慮した教育・保育	異年齢との関わりを大切にする教育・保育	子どもたちの健康と安全を守る教育・保育	食育を推進する教育・保育	インクルーシブな教育・保育
・一人一人の姿をよく見て、ありのままを受け止めながら、その時々でよりよい関わりをすることを意識し、その子の心身の健やかな育ちを保障していく。	・年齢ごとの発達の理解を深め、個々への関わりを十分に心掛けながら、心身ともに年齢に応じた発達ができるよう関わっていく。	・“見て学ぶ”経験を積み上げていける環境設定を積極的にしながら、様々な年齢との交流の機会を深めていく。	・職員の共通理解の下、健康で安全に過ごせる環境を整えていく。 ・様々な経験を積みながら健康で丈夫な身体作りをしていくことを心掛けるとともに、年齢に合わせた安全に対する意識も高めていく。	・栽培や収穫の経験・自分で調理する経験を通して「食」に対する興味や関心を高めていく。また、食物と身体作りの結びつきについて、年齢なりの理解を持てるようにする。	・それぞれの個性を大切にしながら、よりよい発達をしていけるよう、家庭や専門機関との連携を図るとともに、保育所全体で共通理解をもって関わっていく。また、いろいろな子どもの姿や特徴を子どもなりに理解しながら関わり合いをもてるようにしていく。

教育課程・育ちの過程

	年齢	０歳児	１歳児	２歳児（満３歳児）	３歳児	４歳児	５歳児
養護	生命の保持	○安全で清潔な環境を整える。 ○生理的欲求を満たし、心地よく過ごせるようにする。 ○気温や湿度に留意しながら薄着の習慣を付け、丈夫な体づくりをしていけるようにする。 ○スキンシップを多く持ち、安心して過ごせるようにする。 ○信頼できる保育者と触れ合い、愛着関係を深め、心地よい生活を送れるようにする。 ○ゆったりと過ごし、食事や睡眠などの生活リズムが整うようにする。 ○喃語や指さすものを理解し、子どもの気持ちに寄り添いながら応答していく。 ○自分でやりたいという気持ちを大切にし、援助しながら満足感を感じられるようにする。 ○信頼関係が深まる中で、安心して自分の気持ちが伝えられるようにしていく。	○安全で清潔な環境を整える。 ○運動機能が発達するため、子どもの行動範囲を十分把握し環境の安全に配慮する。 ○一人一人の健康状態や生活リズムを把握し、快適に過ごせるようにする。 ○不安や欲求を受け止め、スキンシップを多く持ち、愛着関係を深め、安心して過ごせるようにする。 ○子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう信頼関係を築いていく。 ○保育者が仲立ちをしながら一緒に遊び、友達との触れ合いを楽しめるようにする。 ○自分でやりたいという気持ちを大切にし、意欲的に生活できるようにする。 ○自我の芽生えを受け止めながら、心の動きや成長を知り安定して過ごせるようにする。	○一人一人の健康状態を把握し、快適な生活ができるようにする。 ○基本的生活習慣の自立に向けて、一人一人の状況に応じた援助をする。 ○一人一人の発達段階を把握し、危険のないよう環境を整え、挑戦する行動を見守っていく。 ○一人一人の気持ちを受け止め、共感し、信頼関係を深める中で、子どもが安心して気持ちを表すことができるようにする。 ○様々な場面で現れる自我の育ちを丁寧に受け止め、見守っていく。 ○保育者とのつながりを基に、友達にも関心を広げ、関わり方を伝えながら一緒に遊ぶ楽しさが味わえるようにする。	○基本的な生活習慣を身に付けられるように援助する。 ○できることが増え、自分でやり通そうとするなど、自分の意志で生活しようとする気持ちを認め、成功体験を積み重ねていけるようにする。	○運動量が増し、活発に活動できるように配慮する。 ○一人一人が安心して自分の気持ちを表現し、自己肯定感をもち意欲的に活動できるようにする。	○体や病気について関心を持ち、健康的な生活に必要な習慣や態度を身に付けられるようにする。 ○一人一人の成長を認め、それぞれが満足感や達成感を十分に味わえるようにする。
養護	情緒の安定				○体を使ったいろいろな遊びを楽しむ。 ○保育者を仲立ちとしながら、友達と関わって遊び、みんなと一緒に楽しさを味わう。 ○気の合う友達と遊びを進めていく楽しさを味わう。 ○異年齢児と関わることを楽しみ、遊びを模倣したり、取り入れたりする。 ○身近な自然・素材・空間などを自分なりに見立てて遊ぶ。 ○いろいろな素材に触れて、その感触を楽しむ。 ○活動を通して、遊びの中のいろいろなきまりに気付いたり、必要な言葉を知ったりする。 ○感じたことや思ったことを保育者や友達に自分なりに表現する。	○全身を使って、いろいろな遊びに挑戦する。 ○危険な場や遊び方などを知り、安全に気を付ける。 ○気の合う友達とのつながりを深めながら、遊びを楽しむ。 ○身近な環境の中で関心のあるものや年長児のしている遊びを、自分たちの遊びや生活の中に取り入れていく。 ○いろいろな遊びの中で必要なものを友達と一緒に考えたり、工夫したりしてつくり、遊びに生かして使う。 ○保育者や気の合う友達の話を興味をもって聞いたり、自分の思っていることを話したりする。 ○友達と一緒に、思ったことや感じたことを、様々な方法で表現する楽しさを味わう。	○友達と積極的に体を動かす活動に取り組み、みんなで一緒に遊ぶ充実感を味わう。 ○危険な場や遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動しようとする。 ○生活や遊びに見通しをもって活動する。 ○友達と共通の目的に向かって活動することの楽しさを味わう。 ○身近な環境に好奇心や探究心をもって関わり、いろいろな遊びや生活に取り入れていく。 ○自分の考えを相手に伝えたり、友達の良さを認めたり、その考えを取り入れたりしながら遊びを進めていく。 ○友達とイメージを共有しながら、自分なりの動きや言葉などで表現して遊ぶ楽しさを味わう。
教育及び保育	健やかに伸び伸びと育つ	○初歩的な運動機能が発達する。 ○食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ、快適に過ごす。	健康：○運動機能が発達し、探索活動を楽しむ。 ○簡単な身の回りのことなどに興味をもつ。	○十分に体を動かし、遊具や用具を使った簡単な遊びを楽しむ。 ○簡単な身の回りのことを自分でしようとする。			
教育及び保育	身近な人と気持ちが通じ合う	○身近な保育者と過ごすことを喜ぶ。 ○保育者の言葉掛けが分かり、自分の気持ちや欲求を片言や身振りで伝えようとする。	人間関係：○保育者や友達に関心を持ち、真似をしたりして自ら関わろうとする。 環境：○身の回りの環境に興味や関心をもち、様々な遊びを楽しむ。 言葉：○話し掛けややり取りの中で、声や言葉で気持ちを表そうとする。	○自我が芽生え、友達との関わりの中で簡単なルールがあることを知る。 ○身の回りの様々なものに関わり、好奇心を持つ。 ○保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りを楽しむ。			
教育及び保育	身近なものと関わり感性が育つ	○保育者の声や表情に安心感を覚え、快・不快感を表す。 ○身の回りの環境に興味を持ち、見たり、聞いたり、触れたりする。	表現：○保育者と一緒に模倣遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりする。	○保育者や友達と一緒に、見立て・つもり遊びを楽しむ。			

家庭との連携

・連絡帳や保育所だより、ポートフォリオ等の媒体を通して、保育所での子どもの様子を伝えたり、送迎時の対話を積極的にもったりしながら、子どもの理解を深めるとともに、子どもの成長の喜びを共有し合っていく。

小学校への円滑な接続に向けた教育・保育

・アプローチカリキュラムを有効に活用し、小学校との接続を意識していく。
・小学校との連携を図り、可能な範囲での交流会に参加したり、子どもの様子を伝え合ったりしていく。また、保育所生活に対する理解を深めてもらえるような発信を心掛ける。

地域との連携を大切にする教育・保育

・（実施可能な状況になった際には、）世代間交流会を企画・開催し、地域のお年寄りとの関わりをもつ。

保護者及び地域の子育て家庭への支援

・育児に対する悩みや不安を少しでも解決できるよう、電話相談等を通して情報提供をしていく。また、園庭開放の実施が可能になった際には、地域の子育て家庭の親子の受入れを積極的に行っていく。

研修・研究計画

研究テーマ	生きる力を育む

「個性を認める保育」を基本とした保育を進める中で、様々な子ども同士の関わりを大切にし、保育者の関わり方や子どもの変化を確認しあう所内研修を進めていく。

園の自己評価

評価方法	所内での話し合い

「個性を認める＝やりたくない気持ちも認める」という視点から、一人一人の子どもの姿をよく見て、気持ちに寄り添いながら関わりを深めていく実践を繰り返した。保護者に対しては、ドキュメンテーションを通して保育の可視化を図るとともに、通信の発信を通して子どもの様子を伝えるよう努めた。行事後の保護者アンケートから、子ども一人一人に寄り添っていること、保育所全体で子どもを見守っていることを理解してくれている言葉が寄せられていた。

東金市立第２保育所　　令和４年度　教育及び保育の内容に関する全体的な計画　（編集作成：所長　大泉　由美子）　　令和４年４月１日現在

基本理念	乳幼児期が人格形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、子どもたちとの信頼関係を十分に築き、健やかな成長が図れるよう家庭や地域と連携し、より良い教育･保育の環境を創造する。
教育･保育目標	「心豊かにたくましく、未来を生きる力」を育む
めざす子ども像	○仲良く元気に遊べる子・・・身近な人と十分に関わり、元気に体を動かすことを喜ぶ。 ○思いやりのあるやさしい子・・・思いを伝え合い、相手の気持ちに気付く。 ○自分で考えて行動する子・・・なぜ、どうしてという気持ちをもち、試し、やってみる。 ○あきらめないで挑戦する子・・・見通しをもって活動に取り組み、最後までやり通そうとする。
第２保育所の教育・保育目標	やってみたい！やってみよう！を主体的に実現する子

子どもの教育及び保育目標	
０歳児	一人一人の安定した生活リズムで気持ちよく過ごす。
１歳児	安心できる保育者との関係の下で、自分でしようとする気持ちが芽生える。
２歳児（満３歳児）	基本的な運動機能が発達し、身の回りのことを自分でしようとする。
３歳児	基本的な生活習慣を身に付け、保育者や友達と関わりながら遊ぶ楽しさを知る。
４歳児	友達との関わりを深めながら、いろいろな活動に取り組む楽しさを味わう。
５歳児	生活や遊びの中で共通の目的を持って友達と協力しながら活動し、達成感や充実感を味わう。

●幼稚園：基本保育時間→9：00～14：00　　＊預かり保育　14:00～16：30
●保育所：基本保育時間→7：30（8：00）～18：30（16:00）　　＊延長保育時間→7:00～、～19:00
●認定こども園：基本保育時間→幼稚園的利用は幼稚園と、保育所的利用は保育所と同じ。
＊2歳児クラスでは、満3歳未満と満3歳以上の子どもが混在する中で一体的に教育及び保育が行われるという観点から、実際の教育及び保育の現場においては月齢差を考慮した関わりと見通しを持って子どもと接する。

行事のねらい

日々の園生活の連続性のなかで、発達等園児の実態に応じて必要なものを行事として行い、行事の運営観点を以下の5項目に分類し実施する。
①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割　　②親子の触れ合いを促す役割
③伝統文化を知らせる役割　　④健康と安全を守る役割　　⑤保育を厚くする役割

特に配慮すべき事項

一人一人を大切にする教育・保育	発達の連続性に配慮した教育・保育	異年齢との関わりを大切にする教育・保育	子どもたちの健康と安全を守る教育・保育	食育を推進する教育・保育	インクルーシブな教育・保育
ドキュメンテーションから子どもの心情を探り、一人一人の子の思いに寄り添い、子どもの思いを実現できるようにしていく。	育ちの過程を踏まえた上で、一人一人の発達に応じて配慮しつつ、見通しをもって保育していく。また、幼児期の終わりまでに育って欲しい１０の姿も念頭に置き保育する中でアプローチカリキュラムを参考に小学校への接続へと繋げる。	年上児にしてもらった経験を年下児にしてあげるという循環を大切にし、関わりを多く持ち互いに刺激しあう関係性を築いていく。	コロナ禍での過ごし方を身に付けられるよう、可視化することで自ら行えるようにしていく。また、感染対策を徹底して行っていく。 安全面においては、園外での歩行の仕方、保育士の配置等十分に配慮する。	健康な生活の基本として「食を営む力」の育成に向けその基礎を培うことを目標とし、栽培や収穫を通し食への関心を高め、たくさん遊んで空腹を感じ、バランスよく食べて空腹を満たすという遊びと食事の関係性も考慮する。	どのような個性をもつ子も皆同じ仲間という認識の下、加配のあるクラスでも担当制とせず、保育所全体で育てていくという職員の共通理解を図る。

教育課程・育ちの過程

	年齢	０歳児	１歳児	２歳児（満３歳児）	３歳児	４歳児	５歳児
養護	生命の保持	○安全で清潔な環境を整える。 ○生理的欲求を満たし、心地よく過ごせるようにする。 ○気温や湿度に留意しながら薄着の習慣を付け、丈夫な体づくりをしていけるようにする。 ○スキンシップを多く持ち、安心して過ごせるようにする。 ○信頼できる保育者と触れ合い、愛着関係を深め、心地よい生活を送れるようにする。 ○ゆったりと過ごし、食事や睡眠などの生活リズムが整うように する。 ○喃語や指さすものを理解し、子どもの気持ちに寄り添いながら応答していく。	○安全で清潔な環境を整える。 ○運動機能が発達するため、子どもの行動範囲を十分把握し環境の安全に配慮する。 ○一人一人の健康状態や生活リズムを把握し、快適に過ごせるようにする。 ○不安や欲求を受け止め、スキンシップを多く持ち、愛着関係を深め、安心して過ごせるようにする。 ○子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう信頼関係を築いていく。 ○保育者が仲立ちをしながら一緒に遊び、友達との触れ合いを楽しめるようにする。 ○自分でやりたいという気持ちを大切にし、意欲的に生活できるようにする。 ○自我の芽生えを受け止めながら、心の動きや成長を知り安定して過ごせるようにする。	○一人一人の健康状態を把握し、快適な生活ができるようにする。 ○基本的生活習慣の自立に向けて、一人一人の状況に応じた援助をする。 ○一人一人の発達段階を把握し、危険のないよう環境を整え、挑戦する行動を見守っていく。 ○一人一人の気持ちを受け止め、共感し、信頼関係を深める中で、子どもが安心して気持ちを表すことができるようにする。 ○様々な場面で現れる自我の育ちを丁寧に受け止め、見守っていく。 ○保育者とのつながりを基に、友達にも関心を広げ、関わり方を伝えながら一緒に遊ぶ楽しさが味わえるようにする。	○基本的な生活習慣を身に付けられるように援助する。 ○できることが増え、自分でやり通そうとするなど、自分の意志で生活しようとする気持ちを認め、成功体験を積み重ねていけるようにする。	○運動量が増し、活発に活動できるように配慮する。 ○一人一人が安心して自分の気持ちを表現し、自己肯定感をもち意欲的に活動できるようにする。	○体や病気について関心を持ち、健康的な生活に必要な習慣や態度を身に付けられるようにする。 ○一人一人の成長を認め、それぞれが満足感や達成感を十分に味わえるようにする。
	情緒の安定				○体を使ったいろいろな遊びを楽しむ。 ○保育者を仲立ちとしながら、友達と関わって遊び、みんなと一緒に楽しさを味わう。 ○気の合う友達と遊びを進めていく楽しさを味わう。 ○異年齢児と関わることを楽しみ、遊びを模倣したり、取り入れたりする。 ○身近な自然・素材・空間などを自分なりに見立てて遊ぶ。 ○いろいろな素材に触れて、その感触を楽しむ。 ○活動を通して、遊びの中のいろいろなきまりに気付いたり、必要な言葉を知ったりする。 ○感じたことや思ったことを保育者や友達に自分なりに表現する。	○全身を使って、いろいろな遊びに挑戦する。 ○危険な場や遊び方などを知り、安全に気を付ける。 ○気の合う友達とのつながりを深めながら、遊びを楽しむ。 ○身近な環境の中で関心のあるものや年長児のしている遊びを、自分たちの遊びや生活の中に取り入れていく。 ○いろいろな遊びの中で必要なものを友達と一緒に考えたり、工夫したりしてつくり、遊びに生かして使う。 ○保育者や気の合う友達の話を興味をもって聞いたり、自分の思っていることを話したりする。 ○友達と一緒に、思ったことや感じたことを、様々な方法	○友達と積極的に体を動かす活動に取り組み、みんなで一緒に遊ぶ充実感を味わう。 ○危険な場や遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動しようとする。 ○生活や遊びに見通しをもって活動する。 ○友達と共通の目的に向かって活動することの楽しさを味わう。 ○身近な環境に好奇心や探究心をもって関わり、いろいろな遊びや生活に取り入れていく。 ○自分の考えを相手に伝えたり、友達の良さを認めたり、その考えを取り入れたりしながら遊びを進めていく。 ○友達とイメージを共有しながら、自分なりの動きや言葉などで表現して遊ぶ楽しさを味わう。
教育及び保育	健やかに伸び伸びと育つ	○初歩的な運動機能が発達する。 ○食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ、快適に過ごす。	健康 ○運動機能が発達し、探索活動を楽しむ。 ○簡単な身の回りのことなどに興味をもつ。	○十分に体を動かし、遊具や用具を使った簡単な遊びを楽しむ。 ○簡単な身の回りのことを自分でしようとする。			
	身近な人と気持ちが通じ合う	○身近な保育者と過ごすことを喜ぶ。 ○保育者の言葉掛けが分かり、自分の気持ちや欲求を片言や身振りで伝えようとする。	人間関係 ○保育者や友達に関心を持ち、真似をしたりして自ら関わろうとする。 環境 ○身の回りの環境に興味や関心をもち、様々な遊びを楽しむ。	○自我が芽生え、友達との関わりの中で簡単なルールがあることを知る。 ○身の回りの様々なものに関わり、好奇心を持つ。			
	身近なものと関わり感性が育つ	○保育者の声や表情に安心感を覚え、快・不快感を表す。	言葉 ○話し掛けややり取りの中で、声や言葉で気持ちを表そうと 表現	○保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りを楽しむ。 ○保育者や友達と一緒に、見立て・つもり遊びを楽しむ。			

家庭との連携

０・１・２歳児では、毎日の連絡帳でのやりとりや、登降所時に保護者と情報を共有する等、密に連絡を取り合い保護者との信頼関係構築、子どもの理解へと繋げる。３・４・５歳児では、その日の出来事を掲示したり、登降所時に様子を伝えたりする。また、保育所での子どもの様子を可視化し、育ちや学びの情報を発信する。

小学校への円滑な接続に向けた教育・保育

アプローチカリキュラムを基にし、資質能力の３つの柱の姿を捉え幼児期の終わりまでに育って欲しい１０の姿へと向かっていくように方向づけることでスムーズな接続へと繋げていく。

地域との連携を大切にする教育・保育

コロナ禍で世代間交流等を実施できていない状況であるため、保育所での活動を可視化し、地区の役員さんを通じて回覧してもらうことで地域との繋がりを図っていく。

保護者及び地域の子育て家庭への支援

保護者へは、各クラスのドキュメンテーションを掲示したり通信を発行したりし、情報発信をしていく。また、地域の子育て家庭への支援としては、園庭開放を行う中で未就園児とその保護者が集える場を提供する。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため代替えとして電話相談を実施する。

研修・研究計画

研究テーマ	「生きる力を育む」

・市内共通テーマ「生きる力を育む」。第２保育所サブテーマ”子どもの育ちを保障する”～ドキュメンテーションから探るやってみようと思える環境作り～と題し所内研究を行い、年度末に研究成果をまとめ市内５か所で発表を行う。
・山武支会、県保育協議会・園内にてＷＥＢ研修に参

園の自己評価

評価方法	ホームページでの公表

１年間環境を日々見直し、子どもが”やってみよう”と取り組める遊びを提供してきた。少しの環境の変化で子ども達が夢中になって遊ぶ姿へと変化もあり、ワクワクした感情が伝わってきた。保育者自身もワクワクしながら環境を整え、子ども達と一緒に、やってみたくなる楽しい環境を構築していくことで”やってみよう”と主体的に遊べる姿へとなっていった。そこから育ちや学びへと繋げる事が出来たと思う。

東金市立3保育所　　令和4年度　教育及び保育の内容に関する全体的な計画　（編集作成:所長　今井　尚美）　　令和4年4月1日現在

基本理念	乳幼児期が人格形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、子どもたちとの信頼関係を十分に築き、健やかな成長が図れるよう家庭や地域と連携し、より良い教育･保育の環境を創造する。
教育･保育目標	「心豊かにたくましく、未来を生きる力」を育む
めざす子ども像	○仲良く元気に遊べる子・・・身近な人と十分に関わり、元気に体を動かすことを喜ぶ。 ○思いやりのあるやさしい子・・・思いを伝え合い、相手の気持ちに気付く。 ○自分で考えて行動する子・・・なぜ、どうしてという気持ちをもち、試し、やってみる。 ○あきらめないで挑戦する子・・・見通しをもって活動に取り組み、最後までやり通そうとする。
第3保育所の教育・保育目標	豊かな自然の中でのびのびと遊ぶ。

子どもの教育及び保育目標	
0歳児	一人一人の安定した生活リズムで気持ちよく過ごす。
1歳児	安心できる保育者との関係の下で、自分でしようとする気持ちが芽生える。
2歳児（満3歳児）	基本的な運動機能が発達し、身の回りのことを自分でしようとする。
3歳児	基本的な生活習慣を身に付け、保育者や友達と関わりながら遊ぶ楽しさを知る。
4歳児	友達との関わりを深めながら、いろいろな活動に取り組む楽しさを味わう。
5歳児	生活や遊びの中で共通の目的を持って友達と協力しながら活動し、達成感や充実感を味わう。

●幼稚園：基本保育時間→9：00～14：00　　＊預かり保育　14:00～16：30
●保育所：基本保育時間→7：30（8：00）～18：30（16:00）　　＊延長保育時間→7:00～、～19:00
●認定こども園：基本保育時間→幼稚園の利用は幼稚園と、保育所的利用は保育所と同じ。
＊2歳児クラスでは、満3歳未満と満3歳以上の子どもが混在する中で一体的に教育及び保育が行われるという観点から、実際の教育及び保育の現場においては月齢差を考慮した関わりと見通しを持って子どもと接する。

行事のねらい

日々の園生活の連続性のなかで、発達等園児の実態に応じて必要なものを行事として行い、行事の運営観点を以下の5項目に分類し実施する。
①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割　　②親子の触れ合いを促す役割
③伝統文化を知らせる役割　　④健康と安全を守る役割　　⑤保育を厚くする役割

特に配慮すべき事項

一人一人を大切にする教育・保育	発達の連続性に配慮した教育・保育	異年齢との関わりを大切にする教育・保育	子どもたちの健康と安全を守る教育・保育	食育を推進する教育・保育	インクルーシブな教育・保育
子どもの人権を十分配慮するとともに、子ども一人一人の人格を尊重しながら、子どもの気持ちに寄り添った保育を行い主体的に活動ができるようにしていく。	一人一人の発達状態の引継ぎを丁寧に行い、継続的に把握しながら、年齢に応じた環境を整えいく。個人差を含め、職員が共通理解を図り、様々な経験を積み重ねながら、保育を進めていく。	幼児組は、5歳児クラス、3、4歳児クラス縦割りの保育を行う中で、異年齢児との生活や遊びを通して他者への思いやりを育むと共に、乳児組、幼児組が関わる機会を多くもち、思いやる気持ちを大切にしていく。	安全、安心を第一とし、全職員が共通理解、連携を図りながら環境を整え、健やかな生活の確立を進めていく。また、事故防止のため、定期的に安全点検や訓練を全体で行っていく。衛生面には十分配慮し、新型コロナウイルス感染拡大防止に保育所全体で対応していく。	旬野菜の栽培の経験を通して、食への興味や関心を高め感謝して食べるよう働きかけていく。また、給食室との連携を図り、給食やおやつを友達と一緒においしく食べられるように工夫していく。	家庭や関係機関と連携した支援を行うため、障害を理解し、職員全体で共通理解の下、保育を進めていく。みんなと一緒に共に学び、共に育つことができるようにしていく。

教育課程・育ちの過程

	年齢	0歳児	1歳児	2歳児（満3歳児）	3歳児	4歳児	5歳児
養護	生命の保持	○安全で清潔な環境を整える。 ○生理的欲求を満たし、心地よく過ごせるようにする。 ○気温や湿度に留意しながら薄着の習慣を付け、丈夫な体づくりをしていけるようにする。 ○スキンシップを多く持ち、安心して過ごせるようにする。 ○信頼できる保育者と触れ合い、愛着関係を深め、心地よい生活を送れるようにする。 ○ゆったりと過ごし、食事や睡眠などの生活リズムが整うようにする。	○安全で清潔な環境を整える。 ○運動機能が発達するため、子どもの行動範囲を十分把握し環境の安全に配慮する。 ○一人一人の健康状態や生活リズムを把握し、快適に過ごせるようにする。 ○不安や欲求を受け止め、スキンシップを多く持ち、愛着関係を深め、安心して過ごせるようにする。 ○子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう信頼関係を築いていく。 ○保育者が仲立ちをしながら一緒に遊び、友達との触れ合いを楽しめるようにする。 ○自分でやりたいという気持ちを大切にし、意欲的に生活できるようにする。 ○自我の芽生えを受け止めながら、心の動きや成長を知り安定して過ごせるようにする。	○一人一人の健康状態を把握し、快適な生活ができるようにする。 ○基本的生活習慣の自立に向けて、一人一人の状況に応じた援助をする。 ○一人一人の発達段階を把握し、危険のないよう環境を整え、挑戦する行動を見守っていく。 ○一人一人の気持ちを受け止め、共感し、信頼関係を深める中で、子どもが安心して気持ちを表すことができるようにする。 ○様々な場面で現れる自我の育ちを丁寧に受け止め、見守っていく。 ○保育者とのつながりを基に、友達にも関心を広げ、関わり方を伝えながら一緒に遊ぶ楽しさが味わえるようにする。	○基本的な生活習慣を身に付けられるように援助する。 ○できることが増え、自分でやり通そうとするなど、自分の意志で生活しようとする気持ちを認め、成功体験を積み重ねていけるようにする。	○運動量が増し、活発に活動できるように配慮する。 ○一人一人が安心して自分の気持ちを表現し、自己肯定感をもち意欲的に活動できるようにする。	○体や病気について関心を持ち、健康的な生活に必要な習慣や態度を身に付けられるようにする。 ○一人一人の成長を認め、それぞれが満足感や達成感を十分に味わえるようにする。
養護	情緒の安定	○嘱語や指さすものを理解し、子どもの気持ちに寄り添いながら応答していく。 ○自分でやりたいという気持ちを大切にし、援助しながら満足感を感じられるようにする。 ○信頼関係が深まる中で、安心して自分の気持ちが伝えられるようにしていく。			○体を使ったいろいろな遊びを楽しむ。 ○保育者を仲立ちとしながら、友達と関わって遊び、みんなと一緒に楽しさを味わう。 ○気の合う友達と遊びを進めていく楽しさを味わう。 ○異年齢児と関わることを楽しみ、遊びを模倣したり、取り入れたりする。 ○身近な自然・素材・空間などを自分なりに見立てて遊ぶ。 ○いろいろな素材に触れて、その感触を楽しむ。 ○活動を通して、遊びの中のいろいろなきまりに気付いたり、必要な言葉を知ったりする。 ○感じたことや思ったことを保育者や友達に自分なりに表現する。	○全身を使って、いろいろな遊びに挑戦する。 ○危険な場や遊び方などを知り、安全に気を付ける。 ○気の合う友達とのつながりを深めながら、遊びを楽しむ。 ○身近な環境の中で関心のあるものや年長児のしている遊びを、自分たちの遊びや生活の中に取り入れていく。 ○いろいろな遊びの中で必要なものを友達と一緒に考えたり、工夫したりしてつくり、遊びに生かして使う。 ○保育者や気の合う友達の話を興味をもって聞いたり、自分の思っていることを話したりする。 ○友達と一緒に、思ったことや感じたことを、様々な方法で表現する楽しさを味わう。	○友達と積極的に体を動かす活動に取り組み、みんなで一緒に遊ぶ充実感を味わう。 ○危険な場や遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動しようとする。 ○生活や遊びに見通しをもって活動する。 ○友達と共通の目的に向かって活動することの楽しさを味わう。 ○身近な環境に好奇心や探究心をもって関わり、いろいろな遊びや生活に取り入れていく。 ○自分の考えを相手に伝えたり、友達の良さを認めたり、その考えを取り入れたりしながら遊びを進めていく。 ○友達とイメージを共有しながら、自分なりの動きや言葉などで表現して遊び楽しさを味わう。
教育及び保育	健やかに伸び伸びと育つ	○初歩的な運動機能が発達する。 ○食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ、快適に過ごす。 ○身近な保育者と過ごすことを喜ぶ。	健康：○運動機能が発達し、探索活動を楽しむ。 ○簡単な身の回りのことなどに興味をもつ。	○十分に体を動かし、遊具や用具を使った簡単な遊びを楽しむ。 ○簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ○自我が芽生え、友達との関わりの中で簡単なルールがあることを知る。 ○身の回りの様々なものに関わり、好奇心を持つ。			
教育及び保育	身近な人と気持ちが通じ合う	○保育者の言葉掛けが分かり、自分の気持ちや欲求を片言や身振りで伝えようとする。 ○保育者の声や表情に安心感を覚え、快・不快感を表す。	人間関係：○保育者や友達に関心を持ち、真似をしたりして自ら関わろうとする。 環境：○身の回りの環境に興味や関心をもち、様々な遊びを楽しむ。 言葉：○話し掛けややり取りの中で、声や言葉で気持ちを表そうとする。	○保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りを楽しむ。 ○保育者や友達と一緒に、見立て・つもり遊びを楽しむ。			
教育及び保育	身近なものと関わり感性が育つ	○身の回りの環境に興味を持ち、見たり、聞いたり、触れたりする。	表現：○保育者と一緒に模倣遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりする。				

家庭との連携

保育所だより、連絡帳、クラスや各年齢でのポートフォリオ等で、保育所の様子を知らせたり、送迎時に家庭との連絡を密に取り合ったりしていく。

小学校への円滑な接続に向けた教育・保育

ネットワーク会議や幼保小研修会などの機会に小学校教師と意見交換や情報を共有し、保育所と小学校との円滑な接続に努める。

地域との連携を大切にする教育・保育

新型コロナウイルス感染拡大防止に十分努める中で散歩に出かけ、地域の方に挨拶をするなど、交流がもてるようにしていく。

保護者及び地域の子育て家庭への支援

各年齢ごとにポートフォリオを掲示し、保育所での様子を可視化していく。園庭開放が再開した場合は、地域性や専門性を活かして子育て家庭へ積極的に関わる場を提供していく。

研修・研究計画

研究テーマ	生きる力を育む

「行事や様々な活動を通して、子どもが主体性を発揮できる保育と保育者との関わりを考える」をサブテーマとし、エピソード記述や保育の一場面を切り取り、子どもの気持ちを探るなど、年４回の所内研修会で意見交換を行う。

園の自己評価

評価方法	保育所職員間の話し合い

昨年度の課題から5歳児単独のクラス編成に変更し、様々な活動の中で、協同性や言葉による伝え合いの育ちにつながるように関わりを大切にしてきたが、まだ保育者の顔を見る姿が多く自信がもてない、自分で考えてほしいという課題がみえたので、次年度につなげる。所内研修で保育所全体の保育への振り返りを行い、反省、改善すべきところを職員間で話し合い、共通理解を図った。コロナ禍のため、安全面に考慮しながら、保育が展開できるような環境作りに努めた。

東金市立豊成こども園　　令和４年度　教育及び保育の内容に関する全体的な計画　　（編集作成：園長　今井　照子）　　令和４年４月１日現在

基本理念	乳幼児期が人格形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、子どもたちとの信頼関係を十分に築き、健やかな成長が図れるよう家庭や地域と連携し、より良い教育･保育の環境を創造する。
教育･保育目標	「心豊かにたくましく、未来を生きる力」を育む
めざす子ども像	○仲良く元気に遊べる子・・・身近な人と十分に関わり、元気に体を動かすことを喜ぶ。 ○思いやりのあるやさしい子・・・思いを伝え合い、相手の気持ちに気付く。 ○自分で考えて行動する子・・・なぜ、どうしてという気持ちをもち、試し、やってみる。 ○あきらめないで挑戦する子・・・見通しをもって活動に取り組み、最後までやり通そうとする。
豊成こども園の教育・保育目標	豊かな自然環境の中で、０歳児から５歳児までが異年齢交流を持ちながら成長していく。

子どもの教育及び保育目標	
０歳児	一人一人の安定した生活リズムで気持ちよく過ごす。
１歳児	安心できる保育者との関係の下で、自分でしようとする気持ちが芽生える。
２歳児（満３歳児）	基本的な運動機能が発達し、身の回りのことを自分でしようとする。
３歳児	基本的な生活習慣を身に付け、保育教諭や友達と関わりながら遊ぶ楽しさを知る。
４歳児	友達との関わりを深めながら、いろいろな活動に取り組む楽しさを味わう。
５歳児	生活や遊びの中で共通の目的を持って友達と協力しながら活動し、達成感や充実感を味わう。

●幼稚園：基本保育時間→9：00～14：00　　＊預かり保育　14:00～16：００
●こども園・保育所：基本保育時間→7：30（8：00）～18：30（16:00）　　＊延長保育時間→7:00～、～19:00
●認定こども園：基本保育時間→幼稚園的利用は幼稚園と、保育所的利用は保育所と同じ。
＊2歳児クラスでは、満3歳未満と満3歳以上の子どもが混在する中で一体的に教育及び保育が行われるという観点から、実際の教育及び保育の現場においては月齢差を考慮した関わりと見通しを持って子どもと接する。

行事のねらい

日々の園生活の連続性のなかで、発達等園児の実態に応じて必要なものを行事として行い、行事の運営観点を以下の5項目に分類し実施する。
①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割　　②親子の触れ合いを促す役割
③伝統文化を知らせる役割　　④健康と安全を守る役割　　⑤保育を厚くする役割

特に配慮すべき事項

一人一人を大切にする教育・保育	発達の連続性に配慮した教育・保育	異年齢との関わりを大切にする教育・保育	子どもたちの健康と安全を守る教育・保育	食育を推進する教育・保育	インクルーシブな教育・保育
個々の家庭環境の違いを踏まえ、集団生活の中で、個性を認め、一人一人に寄り添い、こどもが意欲を持って生活や活動ができるよう、計画を立てて実践していく。	一人一人の発達に合った活動や生活ができるよう計画を立てて働きかけを行い、こどもが自信を持って行動できるよう配慮する。	遊びの中で異年齢児とのかかわりをもち、思いやりの心やいたわりの心を持てるよう、人的環境・物的環境を整える。	コロナウイルス感染症感染拡大防止から手洗い消毒を心掛ける。心も体も共に健康である様、いろいろな経験が出来る環境を整える。また職員の共通理解の基、遊具の点検・遊び方を知らせると同時に子ども自らの気づきも大切にし安全に配慮する。また散歩など園外に出る時には交通ルールを知らせ安全に歩けるようにする。	○歳児から5歳児まで各年齢で食への興味・関心を高め、幼児組では栽培・収穫・調理などを通して、食べることの楽しさを体験する。	すべての子供にとって充実していて楽しく・すべての子供にとって優しい教育・保育を行う。

教育課程・育ちの過程

	年齢	０歳児	１歳児	２歳児（満３歳児）	３歳児	４歳児	５歳児
養護	生命の保持	○安全で清潔な環境を整える。 ○生理的欲求を満たし、心地よく過ごせるようにする。 ○気温や湿度に留意しながら薄着の習慣を付け、丈夫な体づくりをしていけるようにする。 ○スキンシップを多く持ち、安心して過ごせるようにする。 ○信頼できる保育者と触れ合い、愛着関係を深め、心地よい生活を送れるようにする。 ○ゆったりと過ごし、食事や睡眠などの生活リズムが整うようにする。	○安全で清潔な環境を整える。 ○運動機能が発達するため、子どもの行動範囲を十分把握し環境の安全に配慮する。 ○一人一人の健康状態や生活リズムを把握し、快適に過ごせるようにする。 ○不安や欲求を受け止め、スキンシップを多く持ち、愛着関係を深め、安心して過ごせるようにする。 ○子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう信頼関係を築いていく。 ○保育者が仲立ちをしながら一緒に遊び、友達との触れ合いを楽しめるようにする。 ○自分でやりたいという気持ちを大切にし、意欲的に生活できるようにする。 ○自我の芽生えを受け止めながら、心の動きや成長を知り安定して過ごせるようにする。	○一人一人の健康状態を把握し、快適な生活ができるようにする。 ○基本的生活習慣の自立に向けて、一人一人の状況に応じた援助をする。 ○一人一人の発達段階を把握し、危険のないよう環境を整え、挑戦する行動を見守っていく。 ○一人一人の気持ちを受け止め、共感し、信頼関係を深める中で、子どもが安心して気持ちを表すことができるようにする。 ○様々な場面で現れる自我の育ちを丁寧に受け止め、見守っていく。 ○保育者とのつながりを基に、友達にも関心を広げ、関わり方を伝えながら一緒に遊ぶ楽しさが味わえるようにする。	○基本的な生活習慣を身に付けられるように援助する。 ○できることが増え、自分でやり通そうとするなど、自分の意志で生活しようとする気持ちを認め、成功体験を積み重ねていけるようにする。	○運動量が増し、活発に活動できるように配慮する。 ○一人一人が安心して自分の気持ちを表現し、自己肯定感をもち意欲的に活動できるようにする。	○体や病気について関心を持ち、健康的な生活に必要な習慣や態度を身に付けられるようにする。 ○一人一人の成長を認め、それぞれが満足感や達成感を十分に味わえるようにする。
養護	情緒の安定	○信頼関係が深まる中で、安心して自分の気持ちが伝えられるようにしていく。 ○噛語や指さすものを理解し、子どもの気持ちに寄り添いながら応答していく。			○体を使ったいろいろな遊びを楽しむ。 ○保育教諭を仲立ちとしながら、友達と関わって遊び、みんなと一緒に楽しさを味わう。 ○気の合う友達と遊びを進めていく楽しさを味わう。 ○異年齢児と関わることを楽しみ、遊びを模倣したり、取り入れたりする。 ○身近な自然・素材・空間などを自分なりに見立てて遊ぶ。 ○いろいろな素材に触れて、その感触を楽しむ。 ○活動を通して、遊びの中のいろいろなきまりに気付いたり、必要な言葉を知ったりする。 ○感じたことや思ったことを保育者や友達に自分なりに表現する。	○全身を使って、いろいろな遊びに挑戦する。 ○危険な場や遊び方などを知り、安全に気を付ける。 ○気の合う友達とのつながりを深めながら、遊びを楽しむ。 ○身近な環境の中で関心のあるものや年長児のしている遊びを、自分たちの遊びや生活の中に取り入れていく。 ○いろいろな遊びの中で必要なものを友達と一緒に考えたり、工夫したりしてつくり、遊びに生かして使う。 ○保育教諭や気の合う友達の話を興味をもって聞いたり、自分の思っていることを話したりする。 ○友達と一緒に、思ったことや感じたことを、様々な方法で表現する楽しさを味わう。	○友達と積極的に体を動かす活動に取り組み、みんなで一緒に遊ぶ充実感を味わう。 ○危険な場や遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動しようとする。 ○生活や遊びに見通しをもって活動する。 ○友達と共通の目的に向かって活動することの楽しさを味わう。 ○身近な環境に好奇心や探究心をもって関わり、いろいろな遊びや生活に取り入れていく。 ○自分の考えを相手に伝えたり、友達の良さを認めたり、その考えを取り入れたりしながら遊びを進めていく。 ○友達とイメージを共有しながら、自分なりの動きや言葉などで表現して遊ぶ楽しさを味わう。
教育及び保育	健やかに伸び伸びと育つ	○初歩的な運動機能が発達する。 ○食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ、快適に過ごす。	健康：○運動機能が発達し、探索活動を楽しむ。 ○簡単な身の回りのことなどに興味をもつ。	○十分に体を動かし、遊具や用具を使った簡単な遊びを楽しむ。 ○簡単な身の回りのことを自分でしようとする。			
教育及び保育	身近な人と気持ちが通じ合う	○身近な保育者と過ごすことを喜ぶ。 ○保育者の言葉掛けが分かり、自分の気持ちや欲求を片言や身振りで伝えようとする。 ○保育者の声や表情に安心感を覚え、快・不快感を表す。	人間関係：○保育者や友達に関心を持ち、真似をしたりして自ら関わろうとする。 環境：○身の回りの環境に興味や関心をもち、様々な遊びを楽しむ。 言葉：○話し掛けややり取りの中で、声や言葉で気持ちを表そうとする。	○自我が芽生え、友達との関わりの中で簡単なルールがあることを知る。 ○身の回りの様々なものに関わり、好奇心を持つ。 ○保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りを楽しむ。			
教育及び保育	身近なものと関わり感性が育つ	○身の回りの環境に興味を持ち、見たり、聞いたり、触れたりする。	表現：○保育者と一緒に模倣遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりする。	○保育者や友達と一緒に、見立て・つもり遊びを楽しむ。			

家庭との連携

0、1、2歳児では、連絡帳でのやりとりや登降所時に保護者と情報を共有するなど密に連絡をとりあい保護者との信頼関係を気づいていく。クラスごとにこども園での子どもの様子を可視化（ポートフォリオ・ドキュメンテーション）し育ちや学びの様子を発信する。

小学校への円滑な接続に向けた教育・保育

小学校との連携を図りスタートカリキュラムを活用し、卒園までに育って欲しい10の姿を共有して円滑に小学校生活が送れるようにする。

地域との連携を大切にする教育・保育

地域の社会福祉協議会の方と連携し、世代間交流を行いお年寄りとの触れ合いの場を設けたり、公民館に出向いて遊戯を披露する「すこやか親睦会」に参加したりする。こども園つうしんを公民館に掲示する。食生活改善会と協力して献立レシピを配布する。

保護者及び地域の子育て家庭への支援

毎週水曜日に園庭開放を行い未就園児とその保護者が集える場を提供。遊びの発信をする。

研究テーマ	生きる力を育む

研修委員を中心に「異年齢で遊ぶ環境を考える」を豊成こども園のテーマと決めて所内研修を行い、職員の共通理解と資質向上を図る。継続していくことができるよう、日常の職員間での話し合いを大切にして同じ方向を向いて教育保育していかれるようにする。

園の自己評価

評価方法	石井先生巡回指導・所内研修

様々な場面で話し合いを多く持ったことで保育者同士の共通理解深まり、異年齢交流もスムーズだった。正規職員だけでなく会計年度の先生方も自由に意見や提案ができる環境があり、園全体が落ち着いた雰囲気になってきているのは、これまでの成果だと思う。子供だけでなく職員の異年齢交流上下交流もできるようになってきた。

東金市立福岡こども園　　令和4年度　教育及び保育の内容に関する全体的な計画　（編集作成：園長　岡本　多美子）　　令和4年４月１日現在

基本理念	乳幼児期が人格形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、子どもたちとの信頼関係を十分に築き、健やかな成長が図れるよう家庭や地域と連携し、より良い教育･保育の環境を創造する。
教育･保育目標	「心豊かにたくましく、未来を生きる力」を育む
めざす子ども像	○仲良く元気に遊べる子・・・身近な人と十分に関わり、元気に体を動かすことを喜ぶ。 ○思いやりのあるやさしい子・・・思いを伝え合い、相手の気持ちに気付く。 ○自分で考えて行動する子・・・なぜ、どうしてという気持ちをもち、試し、やってみる。 ○あきらめないで挑戦する子・・・見通しをもって活動に取り組み、最後までやり通そうとする。
園の教育・保育目標	自分の思いを表現し、相手の思いにも気付ける子「聞こう・話そう・伝え合おう」

子どもの教育及び保育目標	
０歳児	一人一人の安定した生活リズムで気持ちよく過ごす。
１歳児	安心できる保育者との関係の下で、自分でしようとする気持ちが芽生える。
２歳児（満３歳児）	基本的な運動機能が発達し、身の回りのことを自分でしようとする。
３歳児	基本的な生活習慣を身に付け、保育者や友達と関わりながら遊ぶ楽しさを知る。
４歳児	友達との関わりを深めながら、いろいろな活動に取り組む楽しさを味わう。
５歳児	生活や遊びの中で共通の目的を持って友達と協力しながら活動し、達成感や充実感を味わう。

●1号認定：基本保育時間→9：00～14：00　　＊預かり保育　14:00～16：30
●2・3号認定：基本保育時間→7：30（8：00）～18：30（16:00）　　＊延長保育時間→7:00～、～19:00
●認定こども園：基本保育時間→幼稚園的利用は幼稚園と、保育所的利用は保育所と同じ。
＊2歳児クラスでは、満3歳未満と満3歳以上の子どもが混在する中で一体的に教育及び保育が行われるという観点から、実際の教育及び保育の現場においては月齢差を考慮した関わりと見通しを持って子どもと接する。

行事のねらい

日々の園生活の連続性のなかで、発達等園児の実態に応じて必要なものを行事として行い、行事の運営観点を以下の5項目に分類し実施する。
①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割　　②親子の触れ合いを促す役割
③伝統文化を知らせる役割　　④健康と安全を守る役割　　⑤保育を厚くする役割

特に配慮すべき事項

一人一人を大切にする教育・保育	発達の連続性に配慮した教育・保育	異年齢との関わりを大切にする教育・保育	子どもたちの健康と安全を守る教育・保育	食育を推進する教育・保育	インクルーシブな教育・保育
一人一人の思いに寄り添い、友達・保育者・地域の人々など、様々な人との関わりの中で、豊かな心、逞しく生きる力を育んでいく。	年齢に即した環境作りを心掛けながら、発達の見通しを持って子どもに関わり、一人一人の発達を保障していく。	日々の保育の中で様々な年齢の子ども達が自然に交流できる場を作り、他年齢の存在を意識し、刺激を受けながらお互いに成長していくことを大切にする。	○職員同士の連携を密にとりながら共通理解を深めるとともに、様々な事に自分で気づき行動できる子どもを育てていく。 ○健康な生活に必要な習慣や態度を育てる。	食べることの楽しさ、大切さを実感できる豊かな食の体験を積み重ね、「食べたい」という意欲を育てていく。	家庭や専門機関との連携を図りながら、保育者の工夫、配慮によって、園児が共に認め合える関係を作り、安心して周囲の環境と関わりながら発達していけるようにする。

教育課程・育ちの過程

	年齢	０歳児	１歳児	２歳児（満３歳児）	３歳児	４歳児	５歳児
養護	生命の保持	○安全で清潔な環境を整える。 ○生理的欲求を満たし、心地よく過ごせるようにする。 ○気温や湿度に留意しながら薄着の習慣を付け、丈夫な体づくりをしていけるようにする。 ○スキンシップを多く持ち、安心して過ごせるようにする。 ○信頼できる保育者と触れ合い、愛着関係を深め、心地よい生活を送れるようにする。 ○ゆったりと過ごし、食事や睡眠などの生活リズムが整うようにする。 ○喃語や指さすものを理解し、子どもの気持ちに寄り添いながら応答していく。 ○自分でやりたいという気持ちを大切にし、援助しながら満足感を感じられるようにする。 ○信頼関係が深まる中で、安心して自分の気持ちが伝えられるようにしていく。	○安全で清潔な環境を整える。 ○運動機能が発達するため、子どもの行動範囲を十分把握し環境の安全に配慮する。 ○一人一人の健康状態や生活リズムを把握し、快適に過ごせるようにする。 ○不安や欲求を受け止め、スキンシップを多く持ち、愛着関係を深め、安心して過ごせるようにする。 ○子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう信頼関係を築いていく。 ○保育者が仲立ちをしながら一緒に遊び、友達との触れ合いを楽しめるようにする。 ○自分でやりたいという気持ちを大切にし、意欲的に生活できるようにする。 ○自我の芽生えを受け止めながら、心の動きや成長を知り安定して過ごせるようにする。	○一人一人の健康状態を把握し、快適な生活ができるようにする。 ○基本的生活習慣の自立に向けて、一人一人の状況に応じた援助をする。 ○一人一人の発達段階を把握し、危険のないよう環境を整え、挑戦する行動を見守っていく。 ○一人一人の気持ちを受け止め、共感し、信頼関係を深める中で、子どもが安心して気持ちを表すことができるようにする。 ○様々な場面で現れる自我の育ちを丁寧に受け止め、見守っていく。 ○保育者とのつながりを基に、友達にも関心を広げ、関わり方を伝えながら一緒に遊ぶ楽しさが味わえるようにする。	○基本的な生活習慣を身に付けられるように援助する。 ○できることが増え、自分でやり通そうとするなど、自分の意志で生活しようとする気持ちを認め、成功体験を積み重ねていけるようにする。	○運動量が増し、活発に活動できるように配慮する。 ○一人一人が安心して自分の気持ちを表現し、自己肯定感をもち意欲的に活動できるようにする。	○体や病気について関心を持ち、健康的な生活に必要な習慣や態度を身に付けられるようにする。 ○一人一人の成長を認め、それぞれが満足感や達成感を十分に味わえるようにする。
	情緒の安定				○体を使ったいろいろな遊びを楽しむ。 ○保育者を仲立ちとしながら、友達と関わって遊び、みんなと一緒に楽しさを味わう。 ○気の合う友達と遊びを進めていく楽しさを味わう。 ○異年齢児と関わることを楽しみ、遊びを模倣したり、取り入れたりする。 ○身近な自然・素材・空間などを自分なりに見立てて遊ぶ。 ○いろいろな素材に触れて、その感触を楽しむ。 ○活動を通して、遊びの中のいろいろなきまりに気付いたり、必要な言葉を知ったりする。 ○感じたことや思ったことを保育者や友達に自分なりに表現する。	○全身を使って、いろいろな遊びに挑戦する。 ○危険な場や遊び方などを知り、安全に気を付ける。 ○気の合う友達とのつながりを深めながら、遊びを楽しむ。 ○身近な環境の中で関心のあるものや年長児のしている遊びを、自分たちの遊びや生活の中に取り入れていく。 ○いろいろな遊びの中で必要なものを友達と一緒に考えたり、工夫したりしてつくり、遊びに生かして使う。 ○保育者や気の合う友達の話を興味をもって聞いたり、自分の思っていることを話したりする。 ○友達と一緒に、思ったことや感じたことを、様々な方法で表現する楽しさを味わう。	○友達と積極的に体を動かす活動に取り組み、みんなで一緒に遊ぶ充実感を味わう。 ○危険な場や遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動しようとする。 ○生活や遊びに見通しをもって活動する。 ○友達と共通の目的に向かって活動することの楽しさを味わう。 ○身近な環境に好奇心や探究心をもって関わり、いろいろな遊びや生活に取り入れていく。 ○自分の考えを相手に伝えたり、友達の良さを認めたり、その考えを取り入れたりしながら遊びを進めていく。 ○友達とイメージを共有しながら、自分なりの動きや言葉などで表現して遊ぶ楽しさを味わう。
教育及び保育	健やかに伸び伸びと育つ	○初歩的な運動機能が発達する。 ○食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ、快適に過ごす。	健康：○運動機能が発達し、探索活動を楽しむ。 ○簡単な身の回りのことなどに興味をもつ。	○十分に体を動かし、遊具や用具を使った簡単な遊びを楽しむ。 ○簡単な身の回りのことを自分でしようとする。			
	身近な人と気持ちが通じ合う	○身近な保育者と過ごすことを喜ぶ。 ○保育者の言葉掛けが分かり、自分の気持ちや欲求を片言や身振りで伝えようとする。 ○保育者の声や表情に安心感を覚え、快・不快感を表す。	人間関係：○保育者や友達に関心を持ち、真似をしたりして自ら関わろうとする。 環境：○身の回りの環境に興味や関心をもち、様々な遊びを楽しむ。 言葉：○話し掛けややり取りの中で、声や言葉で気持ちを表そうとする。	○簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ○自我が芽生え、友達との関わりの中で簡単なルールがあることを知る。 ○身の回りの様々なものに関わり、好奇心を持つ。 ○保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りを楽しむ。			
	身近なものと関わり感性が育つ	○身の回りの環境に興味を持ち、見たり、聞いたり、触れたりする。	表現：○保育者と一緒に模倣遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりする。	○保育者や友達と一緒に、見立て・つもり遊びを楽しむ。			

家庭との連携

保護者との日々の会話や連絡帳、園での様子を伝える掲示板を通して、家庭とこども園、それぞれの子どもの生活の様子を伝え合い子ども達の望ましい発達を共有する。

小学校への円滑な接続に向けた教育・保育

市内共通アプローチカリキュラムを活用し、小学校と連携し、小学校生活に安心感と期待感が感じられるような学びの接続を図る。

地域との連携を大切にする教育・保育

行事への参加や招待を通して地域の人々とふれあい、たくさんの温かい見守りの中で育つことを大切にする。

保護者及び地域の子育て家庭への支援

子育てに関する情報交換の場や交流の機会を設けるとともに、相談・支援を行うことで、子どもと保護者の育ちを支援する。

研修・研究計画

研究テーマ	生きる力を育む

「話そう・聞こう・伝え合おう～ごっこ遊びを通して～」を園内の研究テーマとし、自分の思いを表現したり、相手の思いに気付いたり、相手の話に耳を傾けたりできる育ちを願い、ごっこ遊びを通して人との関わりを体験していく。

園の自己評価

評価方法	園内で話し合い

子ども一人一人の個性を理解し、それぞれの家庭事情や育ちに応じた丁寧な関わりをすることを職員間で共通理解し、保育をすすめてきた。子どもの興味をごっこ遊びに繋げていったことで「やってみたい」「こうしたい」と自分の気持ちを表すきっかけとなり、遊びの中で人と関わる楽しさを味わい、人の思いに気づいたり、耳を傾けたりできるような育ちが見られてきた。各クラスで作成しているポートフォリオを活用して事例検討を行い、職員間で意見を交わしたことで、様々な気づきや反省があり、それぞれの保育に対する思いが広がった。

令和４年度

所内研修まとめ

市立保育所・認定こども園　共通テーマ

「生きる力を育む」

第１保育所　サブテーマ

「個性を認める保育」
～共に過ごす中で生まれる関わり～

東金市立第１保育所

令和４年度　所内研修
市立保育施設共通テーマ「生きる力を育む」

☆昨年度のサブテーマ「心の育ちを見つめる保育」～異年齢児との関わりの中で～
　を実践したことによる気付き

・「異年齢で関わる」=「一緒の遊びをする」という思いが強かったが、研修を進めていく中で、見て学ぶ姿も多く見られ、年上の友達に刺激を受けながら育つ自然な関わりの大切さを感じることができた。

・自分のことを中心として行動していた、一人一人の姿を認める・褒めることで気持ちが満たされ、心が育ち、子ども自身が友達の良い姿に気付けるようになっていった。

☆昨年度の課題点

・異年齢交流に視点を置いての保育は今回で終わりにせず、その交流の中から生まれる子どもの育ちを大切にしていきたい。そして、更なる関わりを深めるために保育者がどのように対応していったら良いのか、という課題が見えた。

☆子どもの実態

・異年齢交流を深めていきたいという思いに加え、子どもたちの様子から特別な配慮をしていく必要のある子どもが多いという実態を踏まえ、まずは個々の姿を見つめ、一人一人に合った関わりが必要であると感じる。

☆保育者の願い

・保育者や友達と過ごす中で、一人一人の子どものありのままを受けとめ信頼関係や愛着関係を気付いていきたい。

「個性を認める保育」
～共に過ごす中で生まれる関わり～

☆仮説

・一人一人の望んでいることや興味の対象を考え、関わっていくことで自信をもって行動することができるのではないか。

・保育所全体で子どもの姿を共通理解していくことで、その子に合った関わり方や過ごしやすい環境構成等の手立てが見つかるのではないか。

☆手立て

・担任保育者や関わりの深い保育者だけではなく、保育所全体で個性を認めていくために、職員間での話し合いを多く設けて一人一人に目を向け子ども理解を深めていく。また、状況に応じて担任以外でも保育に関わっていく。

・特別な配慮を必要とする子を無理にクラスの流れに入れるのではなく、その子が乗れるような流れを考えていく。

・やりたいことを認めるだけではなく、出来ないこと、やりたくないことも認めていき、素直な姿を受け入れていく。

☆研究方法

・実際に保育を行った中で出た課題点や反省点をそのままにせず、職員間で話し合う場を設け共通理解を図る。

・巡回指導で頂いた助言を受け、改善点や反省点を見直していく。

○所内研修の経過

〈年５回の所内研修を実施〉

回	実施日	内容
1	４月６日（水）	〈テーマ決め〉 昨年度の反省を踏まえながら、各クラスの子どもの様子を共有し研修のテーマ決めを行っていく。
2	5月 11（水）	第一回石井先生巡回指導
3	７月４日（月）	〈課題検討〉 第一回石井先生巡回を受けて各クラス課題を設定する。
4	７月１９日（火） ７月２０日（水）	〈実践報告・次の課題検討〉 第一回石井先生巡回を受けての助言も含めて設定した課題に基づいて実践したことを共通理解していく。 ポストイットを用いて他クラスの実践内容や変化した子どもの姿の意見交換をして、新たな課題をあげる。
5	10 月 20 日（木） 10 月 21 日（金）	〈実践報告・次の課題検討〉 設定した課題に基づいて実践したことを共通理解していく。 ポストイットを用いて他クラスの実践内容や変化した子どもの姿の意見交換をして、新たな課題をあげる。
6	１２月２８日（水）	第二回石井先生巡回指導
7	１月１０日（火）	〈課題検討〉 第一回石井先生巡回を受けて各クラス課題を設定する。
8	２月６日（月） ２月７日（火）	〈実践報告・次の課題検討〉 第二回石井先生巡回を受けての助言も含めて設定した課題に基づいて実践したことを共通理解していく。 ポストイットを用いて他クラスの実践内容や変化した子どもの姿の意見交換をして、新たな課題をあげる。 〈振り返り〉 所内研修を行ってきた感想を出し合い、一年間の保育の振り返りを行っていった。

石井先生巡回指導

第１回目（５月）

０・１歳児

・出来ないことを無理強いせず、できないという姿も認めていく。子どもの気持ちに寄り添った言葉掛けをしながら、全てを認めることが心も身体も満たされることに繋がる。
・蛇口の動きに繋がるようなひねる動作（ペットボトルキャップ等）を遊びに取り入れる。
・年齢や月齢、遊び等それぞれのタイミングに合わせた食事の検討。

２歳児

・個性を認めるには職員の人数が必要だが、それが難しいのであれば環境に手伝ってもらったらいいのではないか。（例）食事の配膳の準備をしている間はコーナーで遊んで、準備ができたら食べたい人から食べる等
・戸外遊びでもう少ししたら入室時間を延ばし、幼児組の活動を見せ関わりとして繋げていってはどうか。

３歳児

・「個性を認める」ということはやりたいこともやりたくないことも認めること。
・個性を認める保育をするのであれば保育者がたくさん必要となるが、そういう訳にもいかないので、年長児の手を借りてはどうか。
・絵カードなども活用すると効果的ではないか。

４歳児

・片付けが習慣化しているのでは。次に繋がるように残していけば、遊びへの興味・関心が薄れず継続的に遊びを楽しめるのではないか。
・戸外でも制作できるコーナーがあってもいいのでは。

５歳児

・年長児が中心となり遊びを盛り上げていけると良い。
・保育者が遊びを楽しむことで子どもがのってくるので、まずは少人数で遊びを進めてはどうか。

助言・助言を受けての変化・今後の課題
（・）　（〇）　（☆）

第２回目（１２月）

０・１歳児

・戸外に早く出て探索活動をすることで経験値が増えて良い。
〇自分のしている遊びを満足するまで行ったことで、自然な流れで食事に向かうことができていた。
☆行動促進の言葉が多くなってしまっているのではないか
☆全身を使った遊びを楽しめるようにしていくといいのではないか

２歳児

☆戸外遊び前の準備体操は、曲を流して体操を行うと、もっと楽しめるのではないか？
☆戸外遊びを行う際に、目的をもって戸外遊びを行うことと同様に、戸外から室内に入る時も経験したことを室内や戸外で再度経験できるという関連性があると良いのではないか。
〇子どもの姿を捉えた環境作りがされており、安心して遊ぶ姿があった。
・丸や顔をはっきりと描く子がいる。保護者に伝えていくと良い。

３歳児

〇子ども同士の関わりが多く見られ、安心した環境で遊べている。
☆室内の環境を工夫していくことで、自分で遊びを選ぶ選択肢が広がるのではないか。
☆遊びの中で、隠れ家やアジトのような場所を作るとより楽しめるのではないか。
☆保育者が笑顔で関わったり楽しい姿をたくさん見せたりしていくことで、子どもたちも色々な活動に意欲的に参加できるのではないか。

４歳児

〇戸外で山滑りのソリを制作できるようにしたことで、異年齢児も興味を持って一緒にやろうとして刺激となっていた。
・子ども同士でやった、やってもらう、の関係を継続して行っていくと心の育ちに繋がっていくのでは。
・主活動とは別の偶発的に起こった活動を広げていってはどうか。

５歳児

☆子どもが考えて行動する経験を多く持てると良い。
・ドッヂボールをする前に保育者が線を引いていた。子どもたちで線を引き、主体となって遊びを展開しても良かったのでは。

○園内研修の成果と課題

	成果	課題
0．1歳児	○一人一人の気持ちに寄り添うことで個性を認める保育になり、子どもたちの心を満たしながら過ごすことができた。その中で年長児や異年齢児と関わる機会を大切にし、優しく接してもらうことは様々な刺激となり憧れが形成されていたように感じている。	○異年齢児との関わりは乳児と幼児だと一回一回がとても貴重な状況になってしまっているので今後はさらに機会を増やしていきたいと感じた。
2歳児	○できないこと、苦手なことを受け止め無理強いすることなく本人は自分から取り組もうとする姿を待ったことで、その時間を自分なりの楽しみ方で過ごせてよかったと思う。 ○後期より幼児組との関わりが多くなることで年上への憧れや意識が育ったように感じ、進級することへの期待も膨らんでいる様子がある。	○苦手な子がその子なりの楽しみ方が十分に感じられるようになった後、保育者が関わり方を変化させ積極的に取り組めるようにすることが次への課題のように感じた。 ○異年齢児の関わりが室内より戸外の方が多く、もう少し室内での関わりを増やしても良かったように感じた。
3歳児	○子どもたち一人一人の個性を認め、丁寧な関わりを続けていくことでできることが増え、成長に繋がったと思う。 ○保育者が十分に褒めることで、自信が持てたり自己肯定感が育ったりし、自分のことだけではなく周りの友達のことにも意識が向くようになったと思う。	○できることは増えたが、まだ経験不足のことや個別対応が必要な場面が多いので、引き続き丁寧な関わりをしていく ○2，3月は2階で過ごすことが多くなり生活環境が大きく変わると思うので、一人一人の気持ちを受け止めていく。 ○2階で過ごす中で、より身近で異年齢児と関わったり活動を見学できるようにしていく。
4歳児	○子ども一人一人の“やってみたいこと”を認め実現できるように一緒に考えていったことで手立ての選択肢が増えて様々なことにも進んで挑戦しようとする姿が見られた。 ○子どもの思いを実現していくと異年齢児も興味を持ち、自然と一緒の輪の中で遊ぶ場面があった。	○異年齢児と積極的に関わって遊ぶ姿は前年度に比べると少なかったように感じる。一人一人の個性を認めながら関わりをもつことの難しさも感じた。 ○自分がもつ思いが強くなり、友達同士で気持ちを理解し合うことが難しい場面が見られた。思いが通じ合えるように集団で一緒の経験をすることも大切だと感じた。
5歳児	○個性を認める為に子どもたち一人一人をよく見ることができた。 ○一人一人の成長を実感することができた。	○一人一人の思いを汲み取ろうとすると、全体で行わなくてはならないときにまとまりづらかった。
全体	○自分のクラスの課題を様々な視点から見つめられて、手立てや課題を明確にしながら保育をして次に繋げることができた。 ○他の職員からの意見は新鮮であり、課題を共通理解することで所内全体で子どもの育ちを見つめる良い機会となった。 ○「個性を認める保育」というテーマの難しさを感じて始まったが、子どもの変化の根底には、保育士が一人一人の気持ちに寄り添うことが大切であることを再認識できた。	○所内研修を進めるうえで設定した課題を達成するために出た困ったことや悩んだこと、対応に困ったことも記録することで、意見交換も活発になり課題を明確にしながら保育を進められるのでは。 ○子ども一人一人の主張が強く、個性を認めた上で異年齢児との関わりや集団で生きる力を育てることの難しさを感じた。

【１】保育の実施運営・体制全般等に係る観点からの評価

●子どもの最善の利益の考慮 ●組織としての基盤の整備 ●社会的責任の遂行 ●健康及び安全の管理 ●職員の資質向上	個別に配慮を必要とする子どもへの対応に重きを置いて保育を進めることが最優先となることを、職員間で共通理解し、子ども一人一人を園全体で見守ることを大切にしながら過ごすことで、結果的に子どもの人権を大切にする保育へつながった。安全管理においては、職員配置が適正にできるよう行政への申し入れも行い改善することができた。所内研修において、活発な意見交換を行い、互いを評価し合うことで職員の資質向上にもつながった。

【２】計画に基づく評価

●全体的な計画 ●指導計画 ●週日案 ●学級経営案	幼保共通カリキュラムを活用し、学級経営案及び指導計画の立案に取り組んだ。「個性を認める」ということを大きな保育目標として掲げ、実践と振り返りを繰り返しながら、子どもの姿に即した保育の展開ができるよう情報交換と共通理解を深めていった。週日案の中にしっかりと考察を記録できる欄を設けたことで、より振り返りをしやすくなった。個性を認めることが子どもの気持ちに寄り添うことに結びつくことを実践の中から感じることができた。

【３】家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点からの評価

●入所する子どもの家庭との連携と子育て支援 ●地域の保護者に対する子育て支援 ●地域における連携交流	コロナ禍での対応として、保護者の入室を制限する日々が続き、子どもの様子を十分に伝えられない状況の中で、ドキュメンテーションの活用やクラスだよりの発行を通して、子どもの日々の姿を可能な限り伝えるよう努めた。また、保育参観の機会を年２回計画したことで、実際に成長した姿を見てもらい、積極的に対話をする機会を作り出したことで保育の理解を深めてもらうことができた。コロナ禍により、地域との交流の機会がほとんどなく子育て支援の実施や連携を深めていくことは困難であった。

〇まとめ

昨年度は異年齢児との関わりの中で心の育ちを見つめていくことをテーマとしていた。結果、まずは一人一人の気持ちに寄り添い、安心して遊びや生活を楽しめるようにしていくことで、心が満たされ友達の良い姿にも気付けるようになった。今年度も、子どもの実態からも個々の姿を尊重しながら保育を進めることの重要性を再認識したので、まずは子どもの個性を認め心を満たした上で、子ども同士の関わりを楽しめるようにすることをテーマに設定した。

子どもの実態から課題を設定し、職員間で共通理解をして意見交換をしていくと、様々な視点から課題を達成するために必要な手立てや方法に気付くことができた。また、話し合いの機会を設けることで他のクラスが何の目的をもって取り組んでいるのか、何を悩んでいるのかを知り、アドバイスをしたり、してもらえたりして所内全体で子どもの育ちを見つめることができた。

初めは一人一人の個性が強く、全員に目を向けることの難しさを感じたが、子どものありのままの姿を受け入れ信頼関係を築けるようにしていくと、安心した環境の中で好きな遊びを存分に楽しみ、少しずつ友達の姿にも目を向け、真似をしてみたり一緒にやろうとしたりして積極的に関わろうとする姿が多く見られた。生活面でも友達の姿を意識して見通しをもちながら行う姿があった。一方で、できないことや苦手なことはやろうとしない子どもの姿も見られ、本人の気持ちを尊重して自分なりの楽しみ方で生活ができるように寄り添っていった。異年齢児との関わりも少しずつ活発になり、お世話したい心が芽生えクラスの遊びに誘う機会も増えていった。年上の子の遊びに刺激を受け、経験したことを繰り返し行う姿も見られたので、積極的に参加できるように職員間で連携を図っていきたいと思う。

今回の所内研修を通して、保育者が味方となり受け入れることが子どもの心を満たすことに繋がり、自然な姿で過ごせるのだと共通認識することができた。今後もありのままの姿を大切にしながら保育をし、所内全体で一人一人の心の育ちを見つめていきたいと思う。

令和４年度

所内研修まとめ

市立保育所・認定こども園共通テーマ
「生きる力を育む」

第２保育所　サブテーマ　　＜子どもの育ちを保障する＞

～ドキュメンテーションから探るやってみようと思える環境作り～

東金市立第２保育所

令和４年度　　所内研修計画

第２保育所

市立保育所・認定こども園共通テーマ
「生きる力を育む」

昨年度の反省
- 子どもの心情を読み取ろうと週指導計画に写真を取り込み振り返りを行ってきた。その中で、子どもの姿から次は～したい。と書くことが多くあったが、その次の取り組みを実施することができていないことが反省点となった。
- 写真を撮ることにも慣れ、子どもの気持ちを多方面から探ることが少しずつできるようになってきた。引き続き取り組むことで、子どもの気持ちに寄り添いながら保育していきたい。
- 継続する遊びに取り組むことが難しかった。環境構成をしっかり考えながら取り組んでいきたい。

【子どもの姿～保育者の願い】
- ０，１歳児（それぞれが好きな遊びをみつけて遊んではいるが周りが気になりしっかり遊べていないので、一人遊びを思う存分楽しめるようになって欲しい。）
- ２　歳　児（一人一人がカートを使って遊んだり、ままごとをしたりして遊んでいるが、友達とやりとりをしながらごっこ遊びが出来るようになって欲しい。）
- ３　歳　児（遊び方がわからなかったり知らなかったりするので、保育士や年上児を見ながら遊び方を覚えていき楽しんで欲しい。）
- ４　歳　児（あれやってみたいなと思いを伝えることはできるが、どうやったら良いかわからず遊び込めていないので、環境を十分に整えることで自ら遊び込めるようになって欲しい。）
- ５　歳　児（友達と遊んでいるようには見えるが、実は一人一人が好き勝手に遊んでいる状況なので、共通の目的をもって友達と協力しながら遊べるようになって欲しい。）

第２保育所の教育・保育目標
「やってみたい！やってみよう！を主体的に実現する子」

サブテーマ　＜子どもの育ちを保障する＞
～ドキュメンテーションから探るやってみようと思える環境作り～

【仮説】
- 保育士が遊びの見通しを持って環境を整えて行ったら、継続した遊びに発展するのではないか？
- ドキュメンテーションを利用し振り返りを行うことで、子どもの本当の思いに気付けるのではないか？
- 環境を整えることで、子ども達自らやってみたい！やってみよう！と取り組めるようになるのではないか？自ら取り組むことで子どもの育ちへと繋がるのではないか？
- 週指導計画の中に環境を記入する欄を設けることで、写真の子どもの姿からの環境を考えるきっかけになるのではないか？
- 自分達で考え実行することで生きる力を育んでいけるのではないか？

【研究の手立て】
- 週指導計画に準備した環境と次に加えたい環境を記入する欄を設け環境を整えていく。
- 子どもが夢中になって遊んでいる姿を写真に撮り、子どもの心情を探りながら継続した遊びを楽しみ、更にやってみようと思える環境を用意していく。
- １年間を通して見通しをもって保育できるようにする。
- 室内外の遊びを融合させ遊びを展開させていく。
- 異年齢での関わりを大切にしていく。
- 少人数のグループに分け年間４回の所内研修を行い、活発な意見交換をする。

＜所内研修経過＞

- 昨年度の反省から、所内研修のグループを２グループから３グループにし、人数を少なくすることで意見を活発に出せるようした。
- ４回の話し合いの場を設け、次へ繋がるための話し合いとなるように工夫した。

回	実施日	表　題	内　　容	
1	3月28日（月）	サブテーマ決め	・異動者打合せ時に全員が顔を合わせたのでサブテーマを決めた	・話し合いの中で、個々の意見を聞き今年度の取り組みを考えた。
2	5月19日（木）	研修計画作成	・サブテーマを決めた時の昨年度の反省や保育士の思いを文章にして計画を作成	
3	6月　6日（月） 6月　7日（火） 6月　9日（木）	第１回所内研修	＜研修資料＞ ・ドキュメンテーションからの環境構成を一覧にする。	・準備した環境にかかわる子どもの様子から加えたい環境を話し合う。
6月24日（金）第１回巡回指導（石井准教授）				
4	9月　7日（水） 9月　8日（木） 9月　9日（金）	第２回所内研修	＜研修資料＞ ・子どもの姿を写真に撮り環境構成、考察から子どもの変化を探る。	・巡回指導での助言を参考に取り組んだ内容から環境構成や取り組みについて話し合う。
5	12月5日（月） 12月6日（火） 12月7日（水）	第３回所内研修	＜研修資料＞ ・やってみたくなるような環境構成を考え、それに関わる子どもの反応から環境構成の有り方を探る。	・子どもの興味関心を探り、環境を整えることから保育者の願いと実際のギャップを読み解き次に繋げる。
2月　1日（水）第２回巡回指導（石井准教授）				
6	2月7日（火） 2月8日（水） 2月9日（木）	第４回所内研修	＜研修資料＞ ・自分の環境構成を振り返り、成功例と失敗例をあげ一年を振り返る。	・自らの環境構成を振り返り成功例の工夫した点子どもの反応、失敗例の何が良くなかったかを反省する。
7	2月13日（月）	研修まとめ話合い		
8	2月15日（水）	まとめ資料作成		
３月10日（金）所内研修発表会				

＜所内研修の様子＞

第１回目
所内研修風景

第３回目
研修資料

第２回目
研修資料

第４回目
研修資料

R４　第3回　研修資料（　松鳥　）

やってみたくなるような環境構成	子　ど　も　の　反　応
・窓に保育者が作ったステンドグラスを数枚貼り、子どもたちが興味を持ってやってみたいと思えるようにする。 （カラーセロファン、黒い画用紙、セロハンテープ、クリアテープ） ・戸外でも遊べるよう、望遠鏡作りの材料を用意する。 （カラーセロファン、ビー玉、紙コップ、トレーシングペーパー、ｍｔテープ）	・カラーセロファンが光の透過によって床に映し出されると、喜んで眺めたり、自分の手足を重ねてみたりして楽しんでいた。 ・光遊びを戸外でも楽しめるよう、望遠鏡を作ると、築山の上や園庭の様々な場所へ行って光を探そうとしていた。作った日は曇り空で、絵始きれいに見える訳ではなかったが、晴れ間が覗いた瞬間を待ちながら楽しんでいた。 ・継続して楽しめるよう、少し方法を変えて、プラネタリウム作りを始める。はじめは上手くいかなかったが、保育者と子どもたちが共に考え、試してみるきっかけとなった。

＜反省・考察＞
・子どもたちが光の反射に興味をもった瞬間を逃さず受け止めたことで、喜びを共有することができた。
・光への興味を遊びにつなげたことで、興味を深めることができた。
・光の強さ（晴れの日、曇りの日）によって反射や透過の見え方の違いを学ぶことができた。
・興味を持った時が吸収しやすいときであり、機会を逃さず取り入れることができたのは良かった。

０・１歳児　（　もも　組）

＜返回指導での助言＞
＊一人一人の生活ペースに合わせて援助する。
＊水、泥など存分に楽しむことで豊かな感覚が育つ。
＊できないからやらないのではなく、できるよう環境を整える工夫をする。
＊あちこちへ探索に行っているが、自分の力を試していろうちは見守るのがよい。

＜助言を受けての取り組み＞
・子ども一人一人に合わせた援助・環境構成
・「やりたい」ができる環境作り
・

子どもの姿　1	＜考察・環境構成＞	＜子どもの変化＞
	・食事を子どものタイミングで食べ始められるように職員配置を行う。 ・一人一人に合わせての声掛け、援助をする。 ＜考察＞ 保育者との愛着関係、信頼関係が出来てくる子どもの中でみんなと違う事をしていても安心して行動しているが、まだ関係が不安定なものだと不安や戸惑いになってしまっていた様だった。一人一人のペースも大切だがまずは安心できる関係作り、築きをしていくことが大切だと感じた。	・フリーの保育者に入ってもらい子どもの様子を見ながら始めたが、人見知りをしたり不安になったりする姿があった。 ・他所の様子が気になり食事が進まない子もいた。 ・子どもが食事へと気持ちが向いたタイミングで声をかけると自分から席に着くようになってきた。 ・着ぐるり姿中で眠くなってしまう子には遊びの区切り（〇〇を１回したら・絵本を１冊読んだらなど）を付け誘うようにしたところ、子どもも納得して食事を始めるようになった。 ・個々のペースを受け入れてもらえたことで安心して態度や表情・仕草で気持ちを伝えようとすることが増えてきた。
子どもの姿　2	＜考察・環境構成＞	＜子どもの変化＞
	・暑い日はテラスでのプール・水遊びが出来るように設定。 ・プールだけではなくタライ・ウォータージャグなどを用意し水が苦手な子やプールに抵抗がある子にも興味が持てるような遊びを用意。 ・プールが苦手な子には個別にタライを用意し個人のペースで楽しめる場を設定。 ・WBGTをこまめに確認できるように温度・湿度計とWBGT表を引掛し遊びの場に用意しておく。	・プール、水遊びを不安に思っていた子も経験を重ねていく中で慣れていき、自ら楽しもうとする姿がおりてきた。 ・樹テラスに用意していると暑しそうに眠いたり、用意するのを手伝ったりするようになった。 ・おやつ後の流れがわかっているので、子どもが自主的に動く姿が多くなった。（トイレ→樹テーテラス→昼食） ・水が苦手でタライで遊んでいた子が今は自らプールへと入り笑顔で楽しめるようになった。 ・プールだけではなく、他の遊びもあるのでその日に遊びたい遊び自ら行遊び楽しめるようになった。 →その子の「やりたい」が出来る環境になったのではないか。

＜課題＞
・一人一人に合わせての援助、見守りを心掛けているが複数担任やその日に入ってくれた職員との共通対応の共有が難しいと感じている。一人一人の様子や成長を定期的に話し合い取り組めるようにしていきたい。
・個々の生活ペースに合わせての援助をどこまでを見守り、どこまでを許すのかの見極め
・食事などは掛りが気になり集中できない（落ち着かない）ので場所の確保やコーナーの工夫

第４回　所内研修資料　　自分の環境構成を振り返る　（尾高）

	成功した環境例	失敗した環境例
事例		
	工夫した点・子供の反応	どうして失敗したか？を考察する
反省・考察	・コーナーごとに分けたことで、ごっこ遊びのコーナー、病院のコーナー、絵本コーナー、汽車やブロックコーナーごとのそれぞれのコーナーで気の合う友達と一緒に落ち着いてじっくり遊び、やり取りを楽しめるようになった。 ・実際の商品（空き箱やカート等）を用意して、リアルさを実現したことで、子どもたちの遊びや、やり取りが広がり、言葉も多く話すようになった。。	・いろいろな物が交差しごちゃごちゃになり、遊びが（ごっこ遊び・お店屋さんごっこ）続かなくなってしまった。 ・木製レールやブロックで立体的に作成したものも、長く保てずに、壊れてしまうことが多かった。 ・コーナーごとに、それぞれの遊びをじっくり取り組めるよう仕切りを用意することで、コーナーを分ければよかった。 ・仕切りがないことで、遊びの融合にならず、せっかく木製レールを繋げてもカートが通ってしまい、崩れて脱線し遊びが続かなかった。
振り返り	買い物をリアルに感じられるように、実際の商品（お菓子・おもちゃ・カート）を用意し、見立て遊びを楽しめるよう用意してきたことで、友達同士での関わりが増え、やり取りをする姿が見られた。しかし、遊びがマンネリ化すると停滞している様子も見られていた。定期的に見直し、少しずつ商品を増やしたり、環境構成を変えていくことで、また遊びが盛り上がるようになった。子どもの様子に合わせて、見直し改善していくことで、コーナーごとにじっくり遊ぶ姿を保障できる環境を作ることの大切さを感じた。	

＜巡回指導での助言＞

＜１回目＞６月２４日

・０，１歳児
＊一人一人の生活ペースに合わせて援助する。
＊水、泥など存分に楽しむことで豊かな感覚が育つ。

・２歳児
＊あちこちへ探索に行っているが、自分の力を試しているうちは見守るのがよい。
＊観察と模倣の時期である。
＊日常の世界観を再現するとイメージしやすい。
＊子どもの気持ちを言葉にして伝える
＊楽しいと思えるところに刺激を与える

・３，４歳児
＊「モデル」とは、保育士が超カッコイイ物を作ってみせる。そこから“やりたい”に繋げていく。
＊環境の再構成

・５歳児
＊年長児のイメージを大切にする。
＊子どもが考える声掛けをする。
＊「これは危ないから、あとは任せたよ！」と年長児に自分達でやらせてみる。
＊５歳児を環境の作り手にするとよい。
＊やりたいと思った時にすぐ出来る環境が大切。
＊大人が多いと注意が多くなる。

＜２回目＞　２月１日

・０，１，２歳児
＊他市町村の園に比べて、環境が整っているから子ども達がのびのび過ごしている為、運動機能の発達が見られるので、自分のやってきた事に自信を持って保育を工夫していってほしい。
＊出来た事を評価するだけでなく、そこに至るまでの過程が大切。

・３，４歳児
＊大人から子どもへの評価の言葉を減らし、子どもの気持ちを代弁するような言葉掛けが大切。
＊発表会のステージに出られない子の行動を子どもなりの自己表現として本人の気持ちを尊重していく。

・５歳児
＊春から取り組んできた木工遊びを発表会に取り入れた事は、保護者の保育理解にも繋がり良い。
＊衣装は子どもたち自身が作り、自分達で着脱出来る物が良いのではないか。
＊遊戯だけでなく、保育の中の何でも発表になり得る。（廃材工作．絵．コマ．等）

＜保育士の取り組みと子どもの変化＞

・０，１歳児
＊子ども一人一人に合わせた援助、環境構成を行った。個々のペースを受け入れてもらえた事で安心して態度や表情、仕草で気持ちを伝えようとする事が増えていった。
＊室内外で運動遊びが出来る環境を整えた事で、常に運動遊びが出来、子ども自ら意欲的に遊ぶようになったと共に、自分なりに変化をつけようとする姿も見られた。

・２歳児
＊子供同士での関わりを見守ってきた事で、子どもならではの会話や、やりとりをする姿がみられるようになった。
＊ごっこ遊びを通して、お店屋さん、お客さん等、役割を分けて遊ぶ姿が見られるようになった。

・３，４歳児
＊保育者が見本を用意する事で、興味関心を持ち自分なりに試行錯誤しながら、作成する姿が見られた。

・５歳児
＊自分達がやりたい時に出来るように木工遊びの用具をカゴに入れて用意しておく事で、自由に遊べるようになり、繰り返し使っていく毎に道具の使い方も覚えていった。

＜課題＞

・０，１歳児
＊一人一人に合わせての援助、見守りを心掛けているが複数担任やその日に入ってくれた職員との共通対応の共有が難しいと感じている。一人一人の様子や成長を定期的に話し合い、取り組めるようにしていきたい。

・２歳児
＊子ども同士でのやりとりを見守りながらも必要な時には仲立ちとなり、気持ちを言葉で伝えていく事で友達と一緒に遊ぶ事が楽しいと思えるように、丁寧に関わっていきたい。

・３，４歳児
＊環境を用意したり整えたりしても遊びが広がっていかなかったりする事も多く、難しさを感じる事も多かった。
どうしたら子ども達が「やってみたい」と思える環境になるのか試行錯誤をしていきたい。

・５歳児
＊保育者が入る事で遊びが盛り上がるが、抜けてしまうと遊びが続かなくなってしまう為、引き際が難しい。
子どもに任せられる所の見極めをしっかりして、やりたい遊びを遊び込めるように、人的環境となる保育者との関わり方を考えていきたい。

＜成果と課題＞

	成　　果	課　　題
0・1歳児	・運動（全身）遊びや身体機能の発達に繋がる遊びを、十分に取り入れた事で、身体的機能も高まり、興味や好奇心が広がっていった。 ・継続していった事で個人のタイミングで出来るようになり、達成感．満足感．自信に繋がり色々な事に対し意欲的になった。	・一人一人の月齢や発達段階に合わせたコーナー設定が難しく、月齢が高い子には簡単だったり、低い子には難しかったりする為設定の仕方に苦慮した。 ・達成感、満足感に繋がるような保育者の関わり方が難しかった。
2歳児	・子どもの興味に合わせて環境を整え、コーナーを設定した事でお店屋さんごっこを十分に楽しむ姿が見られた。 ・ごっこ遊びを通じて友達と関わって遊ぶ楽しさを知り、その中で自分の思いを十分に出せるようになってきた。 ・友達の姿を見て同じ遊びをする機会が増え、ごっこ遊びでは役割を分担し、言葉のやりとりへと繋がり遊びが広がっていった。	・遊び込めるコーナー設定をする中で、楽しんで遊ぶ子どもの姿があるものの同じコーナーが続いていると、飽きてしまうこともあるため変化を持たせることが難しかった。
3歳児	・ハサミや糊等をいつでも使える環境にしておく事で、遊びの中で使い方を学び繰り返し試す中で上達していった。 ・整えられた環境の中で、４歳児がする遊びを見て真似をする事で様々な経験を積み重ね遊びへの意欲へと繋がった。 ・イメージした物を形にし、完成させる事が難しい場合も多かったが、作る過程を楽しむ事が出来た。	・保育者が用意した環境がイメージした遊びへと、繋がらなかった。子どもの興味関心を更に探る必要があったように思う。 ・いろいろなことに挑戦していこうとする姿が見られず、子どもの成功体験をもっと増やしていければ良かったのではないだろうか。
4歳児	・環境の材料を用意すると、イメージを膨らませ制作に取り組んでいた。 ・遊びを継続するにあたり、環境に少し変化を加える事で、自分達で考え「やってみよう」とする意欲がわいている。子ども達が試行錯誤する事で遊びが継続していた。	・保育者がいかに子どもの気づきをくみ取り、遊びに繋げていけるか。
5歳児	・子どもの興味を探り、用具や道具を自由に使えるよう環境設定してきた事で、「やりたい」と思った時に自ら準備し、取り組む事が出来た。 ・遊びの中で様々な素材や用具の使い方を知り保育士に聞くのではなく、まずは自分で考えて試してみる事が出来るようになった。	・どんな活動も興味を持って積極的に関わろうとする子は同じだった。新しい事に興味を持ちにくい子、自ら関わる事が苦手な子への働きかけや、そういう子が興味を持てるような活動を考える必要がある。 ・保育士が離れると遊びが継続しない場面があるので、離れるタイミングを見極める事、タイミングを見計らって新しいアイテムやアイディアを取り入れる事の難しさを感じた。

【１】 保育の実施運営・体制全般等に係る観点からの評価

●子どもの最善の利益の考慮 ●組織としての基盤の整備 ●社会的責任の遂行 ●健康及び安全の管理 ●職員の資質向上	「子どもの最善の利益」とは何なのかを職員間で話し合い、安心安全な保育環境の基、子ども一人一人がやってみよう！やってみたい！と思える遊びを十分に楽しめる時間・場・環境を整える事で子どもの思いを満足させることこそ最善の利益と捉え、保育に取り組んだ。まだまだコロナ禍での生活であり、３歳児以上児は室内でマスクを着用しての日常となった。が、その生活にも慣れ手指消毒やマスクケースの消毒、衝立・椅子の消毒等子ども自ら取り組む姿が見られる様になった。コロナ対策が健康と安全への意識改革ともなった。

【２】 計画に基づく評価

●全体的な計画 ●指導計画 ●週日案 ●学級経営案	計画に基づき保育を進めていき、年間の見通しをたて保育にあたった。室内外の遊びが融合できる遊び、継続して楽しめる遊びとなるよう考え取り組んだことで、子どもたちの“やってみよう！”という意欲に繋げることができた。環境を整える事に重点を置き、週指導計画に環境を記入する欄を設け日々考えていくことが“楽しかった”“また明日もやろうね”という子どもの主体的な遊びへと導くことができた。

【３】 家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点からの評価

●入所する子どもの家庭との連携と子育て支援 ●地域の保護者に対する子育て支援 ●地域における連携交流	昇降口にドキュメンテーションを掲示することで保育所内での子どもの様子を保護者へと発信した。行事等の様子ばかりでなく普段の遊びを紹介することで、保育所生活を身近に感じてもらえるようにした。地域との関わりがコロナ禍で希薄になりつつあり、世代間交流や子育て支援の園庭開放が中止となり、代替え案として電話相談を行ったが、殆ど電話はなかった。

＜1 年の振り返りとまとめ＞

昨年度の反省と子どもの姿からサブテーマを決め、環境を整えることで子どもの“やってみよう！やってみたい！”を実現できるアシストが出来ると子どもの育ちに繋がっていくのではないかと取り組んできた。保育者が経験させたい課題を見通すこと・子ども達の興味関心を探ることで材料を揃えたり、可視化したりと様々な工夫をし、期ごとに話し合いの場を設け意見を出し合う中で、たくさんの意見を聞くことができ、ヒントを得ることができた。副所長の声掛けで翌月の環境について話し合う場を毎月設け、職員全体で遊びについて考えると環境が充実したものとなっていった。今までも、室内外の環境構成についてはそれぞれが工夫をしてきてはいたが、重点的に着目したことで遊びが発展していく援助となっていったように思う。また、継続した遊びへともなり“たのしかった！明日もやろうね！”という声も聞こえて来た。子どもの充実した遊びとなることで自ら考えたり友達と協力したりする中で、育ちへとつながっていったのではないかと思う。

また、何気なく遊んでいたコーナーも子どもが自ら「やってみたい」と思えるようなワクワクした空間にするにはどうしたらよいか？等一つ一つ見直していき、「ここに〇〇があると楽しいよね！」と保育士自身もワクワクした気持ちで環境を考えていくことで更にやってみよう！という意欲を引き出すことができたように思う。次第に子どもたちからも「〇〇があるといいんだよな～」と提案する姿も増え、遊びが盛り上がっていき子ども主体の遊びへと広がりをみせていた。

自然物を利用した遊びでも探求心が芽生え、光の浸透を捉え不思議に感じた事から保育士がそれを見逃さずに遊びに取り入れたり、草花の色水遊びから色の濃淡や、どの草・花が色が出やすいか等遊びながら学んでいくことができた。その様な自然体験からも生きる力の礎に結びついたのではないかと考える。

令和４年度

所内研修まとめ

市立保育所・認定こども園共通テーマ

「生きる力を育む」

第３保育所サブテーマ

「行事や様々な活動を通して、子どもが主体性を発揮できる保育と保育者との関わりを考える」

東金市立第３保育所

テーマ「生きる力を育む」

昨年度のサブテーマから・・・

＜子どもの姿＞
- 自分から、何にでも挑戦しようとする姿が見られる。
- 自分の思いをうまく言葉で伝えられない子がいる。
- 友達との関わりやつながりが希薄で、自己中心的な面が目立つ。
- 友達とのトラブルを、自分達で解決できない。
- 遊びや生活は自分達で考えて取り組めるようになり、保育者のなげかけには応えられるが、行事への取り組みに主体性は見られない。

＜保育者の願い＞
- 行事や活動を通して、思いや考えを伝え合い、他人の気持ちや考えを認め、折り合いをつけ、目標に向かって意欲的に取り組める子になってほしい。
- あきらめずに最後までやり遂げられるようになってほしい。
- 自分で考えて行動できる子になってほしい。
- 主体的に活動する中で、友達との関わりを深め、達成感や満足感を味わい、自信や意欲につなげてほしい。

サブテーマ

行事や様々な活動を通して、子どもが主体性を発揮できる保育と保育者との関わりを考える。

＜仮説＞
- 子どもたちの日々の興味・関心に沿った行事や活動を通して、自分の思いや考えを出し合い、他人の気持ちや考えを認めたり、折り合いをつけたりしながら問題を解決し、友達と一緒に達成することで満足感や充実感を味わい、自信につながるのではないか？
- 行事を保育の延長（一部）として捉えることで遊びが中断することなく、子ども主体の活動に向かっていけるのではないか？

＜手立て＞
- 子どもが自ら選択できる機会を増やしていき、自分で考えるきっかけを作っていく。
- 日々の保育の中で、子どもたちがどうしたいのか話し合う機会を作り、友達と思いを伝え合ったり、一緒に考えたりする中で、子どもたち自身が活動を作り上げていけるようにする。

＜研究方法＞
- 職員間で話し合いの機会をもち、子ども主体について、共通理解や意見交換をする。また、保護者に発信したり、実践につなげたりしていく。
- 巡回指導で助言を受け、反省・改善点を話し合い、見直していく。

<<所内研修の経過>>

実施日	内容
４月 14 日（木）	昨年度の所内研修を経ての子どもの姿と保育者の願いについての話し合い
４月 22 日（金）	サブテーマの決定
４月 28 日（木）	仮説・手立て・研究方法についての話し合い
６月 21 日（火） ２４日（金） ２７日（月）	第１回　エピソード記述についての情報共有と意見交換
８月 ８日（月）	石井先生巡回指導
９月	第２回　気になる場面についての意見交換
12 月 27 日（火）	石井先生巡回指導
１月 ６日（金） 10 日（火）	第３回　エピソード記述についての意見交換
２月 ３日（金）	１年間の反省・成果・課題について話し合う
３月 10 日（金）	所内研修まとめ発表

<<年齢別のねらい>>

０・１歳児　「人的・物的環境を整え、安心できる保育者との関係の下で自己発揮をしながら、様々な活動に興味をもつ。」

２歳児　「一人一人の子どもの遊びの様子を捉え環境作りをしていくことで、友達との関わりを広げていく。」

３歳児　「子どもたちのやってみたい遊びや活動を形にし、伸び伸びと取り組む中で、友達や保育者とのやり取りを楽しみ、満足感や充実感を感じられるようにする。」

４歳児　「いろいろな活動に取り組む中で、友達との関わりを深めたり、楽しさを共有したりする。」

５歳児　「友達と一緒に目的をもった活動に取り組み、やり遂げる喜びや充実感を味わえるようにする。」

<<石井Ｔ巡回指導>>

第１回　（8月8日）

＜０・１歳児＞

・探索活動はどんどんやらせてほしい。その際、保育者はただついて行き、写真を撮る。写真を通して、子どもの興味の移り変わりを保護者に見せていく。
「自分の行く場所を選ぶ、触りたいものに触る」は基本中の基本。保育者は見守ることが大事。

＜２歳児＞

・ホールのジャングルに異年齢児が参加するのは大事。
・２歳児は、カブトムシをみんな持つことができている。関心があるだけでなく、持てていることがすごい。センス・オブ・ワンダーの土台をつくってほしい。
保育者が楽しそうに語っている。大人が好きになることが、モデルになる。

＜乳児＞

・促しや評価、指示する言葉かけではない言い方を考える。
・大人は何もやらなくてもいい。必要なところだけやってあげる。子どもが自分でやる体験。保育者は子どもの行動を見逃さない目が必要。

＜幼児＞

・ジャングルやスライダーなど、人数が少ないからこその経験を楽しんでいる。先生方が楽しんでいるのがよい。モデルかつ共同作業者になっていたので、子どもの遊びが広がっていた。
・制作を小さなテーブルでこじんまりと行っているのがよい。無理なく、自然に熱中できていた。
・遊びの中でのトラブルも見守るチャンス。困った時、大人にアプローチするのではなく、自分でなんとかしてみようとする、主体的を目指す。
・子どもが主になって環境をつくっていくことができるのが、この園のうり。立体でつくることができるのもよい。全体的な環境への取り組みがよいと思うので、なんでも本格的にやってみることを継続していってほしい。

＜園全体＞

・毎月の誕生会を各部屋で行うようになり、改善された。違うなと思ったことを変えていく勇気が必要。

助言を受けての変化・今後の課題
（〇）　　（☆）

第２回　（１２月２７日）

＜乳児＞

〇完成されてきつつある。手作りの環境・小物に溢れ、すごくゆったりとしている。
環境を作り、子どもが主体的に関わり、大人もゆったりと関わる様子に、感心する。
〇幼児組の新幹線に乳児が乗せてもらうという異年齢児との関わりが見られた。観察・模倣からの学びや待つという経験が大事。
☆保護者に作った物の教育的意味をもっと知らせていくとよい。
☆一人一人の生活リズムに応じて保育所が対応していけるようになるとよい。小さい園ほど個々に対応できると思うので、メリットをいかし、保育所の頑張りを発信していくとよい。
☆子どもの思いや気持ちをどう言葉にするか。違う方向に気持ちを向けるのではなく、気持ちに寄り添って言語化できるともっとよい。ゆったりと関わり、選択肢を用意する。

＜幼児＞

〇ドッジボールを年長だけで楽しむ姿は大事だし、育ちを感じた。保育者がいなくても、遊びが成り立っていた。
☆自信がないので、保育者が来るといろいろと聞く姿が見られ、頼ってしまう。子どもたちが考え、悩み、話し合う経験ができるようにする。（５歳児）
☆ジャングルや恐竜の世界観。適度に大人がモデルとなりながら、子どもが自分でやっていくようにする。どうなんだろう？手をかけていいのかしら？と悩みながらやってほしい。（３・４歳児）
〇当番表の選択式はよかった。『ありがとう・偉いね』の評価ではなく、『綺麗になったね・気持ちいいね』と、その時の気持ちを表現していってほしい。

＜園全体＞

☆大人の立ち振る舞い、言葉かけをどうしていくのか。「ああしろ」「こうしろ」「言ってみな」は不必要。
子どもが自己解決できた時、『よかったね』という寄り添いをする。
こじんまりの中でダイナミックな保育を目指し、なおよくするには？という視点で考えてほしい。

＜＜成果と課題＞＞

	成果	課題
５歳児	・行事や遊びなど１つのことに向かっていく中で、みんなで話し合う機会を多く設けてきた。自分の思いを伝えたり、友達と力を合わせたりして共通の目的に向かってみんなで進めていく姿が見られるようになった。 ・年間を通してチャレンジカードに取り組み、保護者に見てもらいたいという気持ちを行事へとつなげたことで、主体的に取り組み、無理なく行事に向かうことができた。	・話し合いや遊びの中で、互いの思いを伝えられるようになってきた半面、落ち着いて話が聞けないことやまだ保育者を頼ってしまう姿も見られたので、話し合いの仕方や保育者の立ち位置が今後の課題となる。 ・共通の活動や遊びに取り組む中で、興味が薄い子や苦手な子もいたので、一人一人が自信をもって、楽しく参加できるような働きかけや援助が必要であった。
４歳児	・保育者が運動会や発表会を保育の一部として捉えたことで、子どもたちも遊びの延長で計画から参加し、行事を伸び伸びと楽しむことができていたように思う。 ・「上手に踊っておうちの人をびっくりさせたい」という気持ちが芽生え、意欲的に取り組む姿が見られた。 ・行事に向かって話し合う機会を作り、子どもたちの思いを取り入れることで、思いが形となっていく経験ができた。	・遊びの中でなるべく子ども同士の関わりを大切にしているが、主にトラブルがあった時に保育者に助けを求めてくることが多い。 また、保育者も反射的に声をかけてしまうことがあるため、一歩立ち止まって見守ったり、子ども同士が言葉で伝え合ったりできるようにしていきたいと思う。
３歳児	・少人数なこともあり、友達と同じ遊びをすることが多く、一緒に遊ぶ楽しさが感じられ、やり取りが増えている。 ・行事や日々の活動の中で、子どもたちの好きなこと、やってみたいことを取り入れたことで、伸び伸びと取り組む姿が見られた。満足感や自信が感じられてきたことで、身の回りのことを自分で頑張ろうとする姿もでてきた。	・子どもたちがどんな思いなのか、どんなことに興味をもっているのかを知り、遊びにつなげていく中で、遊びを継続して楽しめるよう、環境や援助を考えていけるようにする。 ・身の回りのことは、自分で考え最後まで取り組めるよう、保育者が見守る関わりを大切にしていきたい。
２歳児	・子どもが興味をもっているもの（事）に耳を傾けながら、遊びに取り入れていけるように環境設定をしていった。保育者も子どもと一緒に遊ぶ中でイメージを共有し、言葉のやり取りにもつながってきている。 ・幼児組の遊びに興味を示し、真似したり、一緒に遊んだりすることで、一人一人が遊びをじっくり楽しむ姿が見られるようになった。	・子どもが自由な発想でごっこ遊びを楽しめるように、保育者は見守ることも大切だが、保育者も遊びに加わり、子どものイメージに沿った言葉かけをしながら遊びを盛り上げていくことも必要であるため、見極めていく。 ・少人数であることもあり、遊びが膨らまないこともあったため、保育者が異年齢との関わりがもてる機会をもっと増やしていけるようにしていくことが必要だったのではないか。
０・１歳児	・人的、物的環境を整えるということを意識し、子どものペースややる気を大切にしながら、一人一人と丁寧に関わるよう心がけたことで、生活の様々な場面や遊びの中で意欲的に行動したり、自己を表現したりすることができていた。 ・時間に余裕をもち、一人一人が満足感や達成感を感じられるようにしていくことで、自己肯定感が増し、他者への興味が広がり、友達を心配する、思いやるなどの関わりの姿が見られた。	・いろいろな玩具の中から、自分で選択して遊べる環境を整えたが、玩具を次々と出してしまい、片付けられないことが多かった。片付けやすい環境作りを工夫していきたい。 ・机上の遊びや造形遊びとの併用が十分ではなかったので、コーナー作りを更に工夫できたらと思う。

全体	・普段の保育を無理なく行事につなげたので、子ども自身が見せたい、頑張りたいという思いで、自信をもって取り組んでいたことが成長につながった。	・自分から思いを出せない子への働きかけをどうしていくか。 ・職員に頼りすぎる傾向がまだあるので、どこまで手を出していいのか距離感が難しい。

【１】 保育の実施運営・体制全般等に係る観点からの評価

●子どもの最善の利益の考慮 ●組織としての基盤の整備 ●社会的責任の遂行 ●健康及び安全の管理 ●職員の資質向上	子ども一人一人の人格を尊重しながら、気持ちを受け止め、思いが形となるような援助や環境、関わり方を職員間で話し合い、全職員が共通理解をし、工夫しながら、保育に取り組んできた。子どもの安全のため、保護者にも協力してもらい欠席連絡の確認を徹底した。職員全体で外部講師のアドバイスを参考に子どもの主体性につながる保育について、所内研修や週指導計画会議で話し合うことで、全職員の保育の質を高められるようにした。

【２】 計画に基づく評価

●全体的な計画 ●指導計画 ●週日案 ●学級経営案	共通カリキュラムに基づき、全体的な計画、学級経営案、月指導計画、週指導計画を作成し、週指導計画会議で日々の保育を振り返り、次の保育へとつなげていった。「行事や様々な活動を通して、子どもが主体性を発揮できる保育と保育者との関わりを考える」をサブテーマとし、子どもの思いや考えが遊びとなり、継続して楽しんでいる活動を行事内容として取り入れることによって、子ども主体の行事となるように保育を展開しすすめていった。

【３】 家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点からの評価

●入所する子どもの家庭との連携と子育て支援 ●地域の保護者に対する子育て支援 ●地域における連携交流	保護者の不安を取り除けるようにコミュニケーションを大切にしながら、丁寧な対応を心掛け、思いを理解することに努めた。月４回行っている園庭開放はコロナ禍のためできなかった。子育て電話相談の実施を広報、ホームページにて掲載し、月２回行ったところ、１件の相談があった。新型コロナウイルス感染予防に努めながら、散歩に出かけ、地域の方より、花の苗をいただいたり、お手玉をいただいたりと少しずつではあるが、交流ができた。

＜＜まとめ＞＞

子どもが主体性を発揮できる保育を考える中で、遊びや生活は自分達で考えて取り組めるようになってきているが、行事への取り組みに主体性が見られていないのではないかという課題が出てきた。行事を保育の延長として捉え、それぞれの年齢において、子どもが自ら選択する、友達と思いを伝え合う、一緒に考えてつくり上げるなどの機会を増やし、満足感や充実感を感じられるようにした。また、普段の保育の中の、子どもたちの『見せたい』という思いを形にして、無理なく行事につなげたことで、子どもたち一人一人が自信をもって、楽しく生き生きと参加することができた。今まで行ってきた保育・行事への取り組み方を保育者自身が見直したことで、今までと視点を変えた行事への進め方ができたのではないかと思う。

行事への取り組み方はよい方向に転換していくことができたが、普段の保育の中での保育者の関わり方や、個々の育ちに、より丁寧に目を向けていくことが今後の課題になっている。所内研修を通して、保育を振り返り、反省・共有・改善することができたので、引き続きより子どもに寄り添った保育を、保育者一人一人が意識して、取り組んでいきたい。

令和４年度
園内研修まとめ

市立保育所・認定こども園共通テーマ
「生きる力を育む」

豊成こども園サブテーマ
「異年齢で遊ぶ環境とは」

東金市立豊成こども園

全所・園共通テーマ

「生きる力を育む」

（豊成こども園の様子）
- 昨年度は子どもたちがやりたいことを実現するための保育者の役割について研修を行い、それぞれのクラスの特色を発揮しながら保育を行うことができた。そのため、子どもたちは友達と一緒に好きな遊びをしたり、何でも「やってみたい！」と意欲的に遊びに取り組んだりしている。また、絵具や生き物との関わりなど、それぞれ興味関心を持った遊びを楽しんでいる姿が見られる。

（昨年度からの課題）
- それぞれのクラスで遊びを楽しむことはできたが、年齢別保育や感染症対策のため、異年齢で遊びを共有することができなかった。
  異年齢交流をどのように工夫して行っていったらいいのかを考えていきたい。

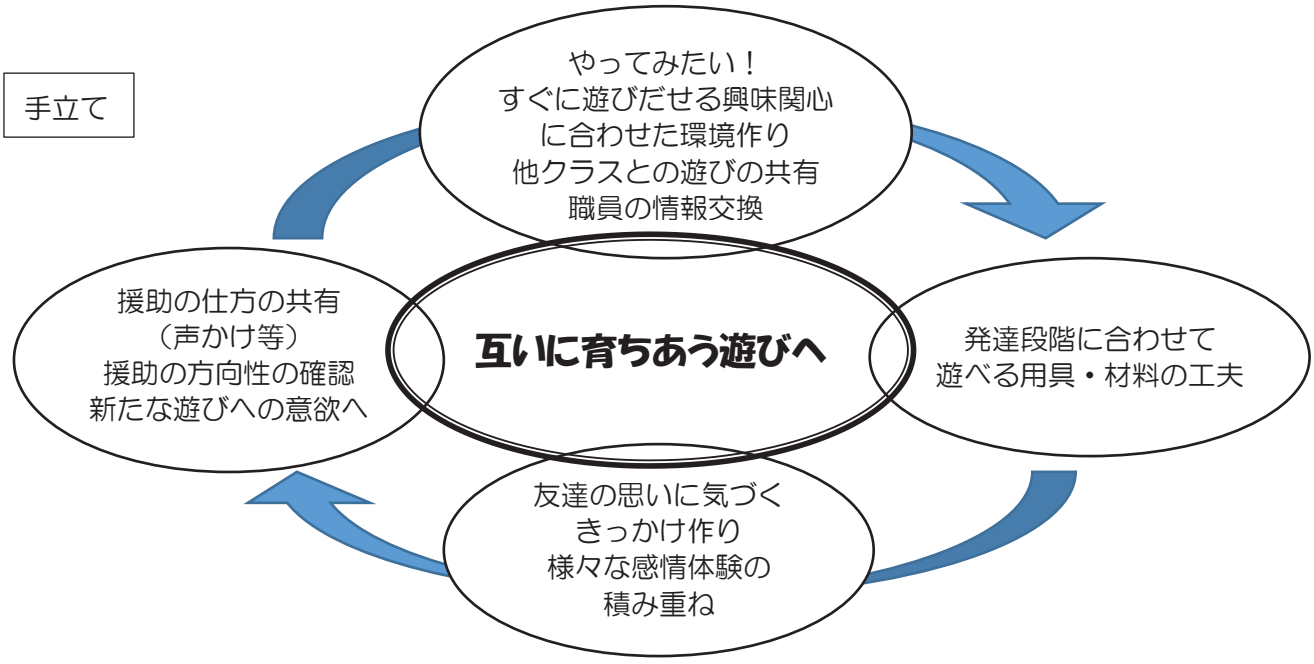
（保育者の願い）
- 思いを出しながら関わって遊ぶことを楽しめるようになってほしい。
- 経験の少ない子も、異年齢の友達から刺激を受けて色々な遊びに挑戦できるようになってほしい。
- 同じ遊びに興味関心を持って、発達段階に応じた関わりをしながら遊びを発展させていくことができるようになってほしい。
- 異年齢の子と関わる中で、小さい子に優しく接したり、上の子に憧れたりする経験をしてほしい。また、優しくしてもらえた嬉しさを感じ、愛情や信頼関係を築きながら、自然と相手を思いやることができるようになってほしい。

R４年度豊成こども園のサブテーマ

『異年齢で遊ぶ環境とは』

【仮説】
- 異年齢の子との関わりが、色々な遊びへの興味・関心のきっかけとなり、子どもたちの「やってみたい」という気持ちにつながるのではないか。
- 年上の子が小さい子の「やってみたい」思いに気が付き、保育者と一緒に遊びの環境を整えていくことで、遊びが盛り上がっていくのではないか。
- 異年齢の子と遊ぶ中で思いやりやいたわりの気持ち、憧れなど、様々な感情体験を積み重ねることで、お互いに育ちあい、毎年繰り返されていくのではないか。

手立て



【研究方法】
- 子どもたちが興味を持っている遊びや行事について事例研究をし、それぞれの発達段階を踏まえながらどのように遊びに関わったら一緒に遊びを楽しんでいけるのかそれぞれの思いを出しながら考え、全職員で共有していく。
- 巡回指導での助言を受け、反省・改善点を話し合い、課題の見直しをする。

〇園内研修の経過〇

回	実施日	内　容	
1	4月14日（木）	クラスの実態についての話し合い サブテーマ決定	・年度当初のクラスの実態や昨年度の園内研修の良かった点、課題点を踏まえて、今年度の園内研修の方向性を考えていく。 ・保育者の願いや仮設、手立てについて話し合う機会を作り、園内研究計画を作成した。
2	4月15日（金）	保育者の願い・仮説・手立てについて	
3	5月13日（金）	園内研究計画完成・提出	
4	5月27日（金）	第１回巡回指導	・巡回指導で助言を聞き、研究方法を考えていく。今年度も事例研究から、子どもたちの遊びについて探っていくことにする。
5	5月30日（月）	研究方法について	
6	7月21日（木）	事例提出①	・各クラスの遊びの様子や保育者の思いを事例によって職員間で共有していく。 ・コロナ禍のため、感染症対策で話し合いではなく意見を書いて提出する。それぞれ事例から良かった点、課題点を提出し、まとめた内容を配付して、共有できるようにした。 ・事例研究①からでた課題点を踏まえ後期の園内研修について、方向性を考える。
7	7月28日（木）	事例研究①（感想提出）	
8	9月8日（木）	事例研究反省・感想を踏まえて 後期の取り組みについて	
9	11月10日（木）	事例提出②	・各クラスの遊びの様子や保育者の思いを、再度新しい事例によって職員間で共有していく。 ・各クラスごとに事例研究を行い、代表者が集まってクラスごとの意見を持ち寄る。
10	～12月5日（月）	各クラスごとに事例研究	
11	12月6日（火）	事例研究②（話し合い）	
12	12月22日（木）	２回目の事例研究を終えて振り返り １年間の成果と今後の課題について	・今年度の園内研究をして良かった点（成果）と課題点について、シートに記入して持ち寄り、話し合う場を設けた。
13	2月13日（月）	第２回巡回指導 巡回指導後、１年間の成果の振り返り	・今日の保育の様子から子どもたちの成長、保育者の成果について振り返る。自分たちの保育の良かった点を共有していく大切さについての助言を受け、振り返りの中で共有していった。
14	2月17日（金）	園内研修まとめ完成・提出	・１年間の成果と課題、巡回指導の助言から園内研修のまとめを作成し、提出する。

【石井先生の巡回指導を受けて】

第１回目（５月２７日）

（０・１歳児）

・子どもがやりたいことをやらせてあげているところがいい。

・声掛けが具体的にされるともっとよい。

（２歳児）

・窓の絵の具遊びが自由に描かれていてよかった。

・保育室だけではなく廊下やホールで遊ぶようにしてみてもいい。

（３歳児）

・廃材の素材を増やして選べるようにするといい。

・年上の子をモデルにするのがいいが、難しい時は保育者がモデルになって遊びを盛り上げていくようにするといい。

（４歳児）

・集団では動けるので、自分の考えが言えるようにしていく。

・現担任がやりたいことと、子どもたちの昨年度の経験を混ぜていく工夫をしていくといい。

（５歳児）

・ままごとの環境が廊下にあることで、やりたい子が存分に楽しむことができている。

・経験画は終わってから描くのではなく、やっている最中に描いてもよいのではないか。

（幼児）

・はみがき教室があったことで、活動が途切れてしまった。各クラスで、はみがき教室をやるのではなく、ホールでやることで遊びが途切れないのではないか。（室内を片付けずに済むのではないか）

第２回目（２月１３日）

（乳児）

・上の子が自然に遊びに加わっている姿が見られて良い。

・動的なエリア、静的なエリアを分けてあるのが良い。遊びを十分に楽しむことができる。

・発達的に１歳頃からごっこ遊びが活発になっていくので、すぐにごっこ遊びができる環境になっていた。

・壁に絵を描くなど、家庭ではできない経験を園でできている様子が良かった。

（幼児）

・全員が一緒の遊びに参加するのではなく、自分で選択をして、やりたい遊びに参加できている様子が良かった。発表会ごっこではやりたい子が集まっているのでノリノリで参加できていた。

・会計年度の先生達がプライドを持って保育をしており、皆で話し合って共通理解ができている様子が伺えた。先生達で褒めあって保育の良いところを共有していくといい。

（全体）

・いろいろな年齢の子達が行き来しながら遊びを楽しむ姿が良かった。

・子どもたちがやりたいことを選択して遊ぶことができている。

・保育室に様々な遊びが設定してあることでいろいろな遊びを観察することができ、どの発達段階の子でも遊びを選ぶことができる。

・遊びの環境を保育者が意図的に楽しんで作ることができている。

・今年子どもたちがしてきた経験を来年の担任に引き継いでいってほしい。

【成果と課題】

	成果	課題
乳児	○異年齢の子と触れ合う機会を繰り返し作ってきたことで、日常の中で自然と関わりを持つことができるようになった。 ○生活や遊びの中で、上の年齢の子の姿を見て乳児なりにも真似をする姿が見られ、今までやろうとしなかったことや知らなかったこと、乳児だけではなかなか経験できないような遊びに挑戦することができた。 ○お手伝いしてもらう、助けてもらう、教えてもらうという経験をすることで、逆の立場になってやってあげよう、やってあげたいという気持ちがでてきた。 ○必要以上に声かけをせず、「やりたい！」と言う気持ちを大切にして見守ってきたことでいい結果に繋がったと思う。	○体調や生活の状況で、交流の機会を増やすことが難しかった。 ○幼児組が保育室に遊びに来ることがあり、子どもたちが喜ぶ姿が見られたので、そのような機会をもっと作っていきたい。 ○子どもたちと作ったごっこ遊びの品を活用して、廊下や遊戯室などでお店をオープンし、今後も異年齢と関わって遊べるようにしていきたい。 ○感染症対策で室内での関わりが難しかった分、戸外やテラスに遊びのコーナーなどを作ったり、散歩などの機会を作ったりすると良かった。
幼児	○遊びや行事などで異年齢の子に興味を持てる環境を作ってきたことで、自分達もやってみたいという気持ちに繋げることができた。また、自然と異年齢の子と関わることができるようになった。 ○子どものつぶやき、ささやきを受け止め、環境を考えて交流に持っていけたのが良かった。 ○異年齢交流の場をみんなで大切にして保育が行われていたので、他クラスの遊びに興味を持った時に遊びに入りやすかった。 ○遊びが盛り上がってきたときに、どうしたら他クラスの子とも遊べるかという視点が持てるようになった。 ○異年齢の子との関わりの中で遊び方やルール、安全な過ごし方などを教えてもらったり、影響を受けたりすることができた。	○感染症対策の関係もあり思うような活動ができなかった。そんな中でも工夫してもっと交流が持てるように保育者が工夫していければ良かったと思う。 ○コロナ禍という部分が引っかかってしまい、どこまでやっていいのかわからないことがあった。そんな中でも遊びのきっかけをうまく拾い、展開できるよう職員間のコミュニケーションを取っていければ良かった。 ○5歳児がもう少し下の子と関われる機会を作れるよう、職員の関わり方を工夫したり環境を作ったりしていけば良かった。
全体	○コロナ禍でも異年齢交流を行ったり、会議等で遊びの現在の様子とこれからの様子を共有していったことで、共通理解のもとで保育を行ったりすることができた。 ○全員の保育者が園児全体を保育していく姿勢により、子どもが安心してどのクラスの遊びにも入っていくことができた。日々の子どもたちの関わりの積み重ねから交流が深まっていくことで、保育者同士信頼してお互いのクラスの子を任せることができた。 ○各クラスの保育者が工夫して、楽しい遊びを異年齢で遊ぶ機会が持てて良かった。 ○経験の積み重ねを保育者が意識していたことで、室内遊びでは感染症対策で交流ができない時期があっても、その後に繋げることができた。また、戸外でも遊びのコーナーを作るなど工夫したことで色々な年齢の子が参加でき、一緒に遊ぶことができた。	○経験させたいことは共有できていたが、どこまで行うかということが共有できていなかったと思う。同じ遊びでもそれぞれの遊びの経験の差や、年齢によって目標やねらいの違いがあると思うが、そこのねらいの部分が明らかになっていなかったように思う。 ○兄弟のいない子、経験があまりない子への対応ができると良かった。 ○戸外でのコーナーは良かったが、単発ではなく数日～数週間単位で計画を立て、日時を知らせて実行すると確実に参加することができたのではないかと思う。そのために、全体で計画を立て、担当を決めたり他クラスを巻き込んだりしての準備が必要かと思う。 ○遊びに参加するにも、保育者の言葉がけや一緒に参加することでじっくり遊べたり、保育者が見本を見せることで接し方が分かったりすると思うので、保育者の関わり方も大事なのではないかと思う。

【１】 保育の実施運営・体制全般等に係る観点からの評価

●子どもの最善の利益の考慮 ●組織としての基盤の整備 ●社会的責任の遂行 ●健康及び安全の管理 ●職員の資質向上	保育者としてこどもの最善の利益を考慮し、自己肯定感を育む保育を実践するために、会議だけにとどまらず休憩時間なども使い保育者同士が楽しくこどもの発達についての情報共有を図り、共通理解・共通認識をもって保育にあたった。コロナ禍において徹底した感染対策、個人情報に配慮した健康観察等も行った。園内研修を行ったことで、職員同士が互いの保育の理解を深め、自己研鑽に努めたことで資質の向上につながった。

【２】 計画に基づく評価

●全体的な計画 ●指導計画 ●週日案 ●学級経営案	本市の保育理念・教育保育目標をもとに豊成こども園のテーマ「異年齢交流を持ちながら成長していく」を考え、計画を作成し、実践・評価・反省・改善を繰り返し、様々な場面で話し合いを多く持ったことから園全体で共通理解が生まれ、安定した保育活動が営まれるようになった。このことから園全体が落ち着いた雰囲気になり、自由に交流を行いながら、子どもたちが自信をもって様々な活動を行っている。

【３】 家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点からの評価

●入所する子どもの家庭との連携と子育て支援 ●地域の保護者に対する子育て支援 ●地域における連携交流	コロナ禍で多くの行事が中止になり、その都度手紙を配布したり、ポートフォリオを掲示したり、保護者への丁寧な説明を行い信頼関係を築いてきた。食生活改善会の「おいしいレシピ」を配布して地域の方と連携して食への関心を深めたことも良かった。園庭開放は、電話相談のみを広報に掲載して呼びかけたが、相談がなかったことは残念だった。小学校との交流会が復活し、年長児が交流会に参加することができ、就学に向けて子どもの意欲につながったことがよかった。

【まとめ】

昨年度は「子どもたちがやりたいことを実現するための保育者の役割」をテーマとして園内研究を行い、それによって意欲的に遊びに取り組む姿が育ってきた。一方で、それぞれのクラスで遊びを楽しむことはできたが、年齢別保育や感染症対策のために異年齢で遊びを共有することができなかったという課題点があり、今年度は異年齢で遊ぶ環境に重きを置いて研究を進めることとなった。

異年齢で遊ぶ環境をテーマとしたことで、異年齢交流の場をみんなで大切にして保育を行うことができた。そのため、子どもたちがいろいろな年齢の遊びに加わりやすく、自然と異年齢の子と関わるようになった。感染症対策で異年齢の子と関わることが難しい時期もあったが、会議等で遊びの共通理解を図りながら異年齢の関わりを意識してきたことで、環境を工夫して遊びの場を提供することができた。これらの環境が、上の子の姿を見ながら遊び方を教えてもらったり、遊びをまねしてみたりして色々な遊びの経験をすることや、一緒に過ごす楽しさ、優しくしてもらった嬉しさを感じることで様々な感情体験をすることのできる環境になったのだと思う。この環境での経験が、子どもたちの「やってみたい！」の思いにつながり、次の異年齢交流への意欲となっていったのだと考えられる。

今回の園内研究を通して、異年齢との関わりを楽しめるようになってきた姿が見られる。しかし、兄弟がいない子や経験の少ない子にとってはまだ関わりが難しい様子が見られる。今年度の園内研修で広がり始めた異年齢の関わりを来年度につなげることができるよう、年齢によっての目標やねらいを明確にしながら保育者の援助や環境作りについて考えていき、異年齢交流を更に深めることができるようにしていきたい。また、巡回指導では自分達の保育の良さについて、共有していく大切さについて学んだ。特に、保育者が何でも言い合える、やりたいことができる環境であることについて、子どもたちの姿をすぐ共有したり、保育者が楽しんで環境作りをしたりすることのできる良さがあると話を受けた。これらの良さを大切にして保育を行っていきたい。

令和４年度
園内研究まとめ

市立保育所・認定こども園

共通テーマ　「生きる力を育む」

福岡こども園サブテーマ

「 話そう・聞こう・伝え合おう
～ごっこあそびを通して～」

東金市立福岡こども園

令和４年度　園内研究計画

福岡こども園

共通研究テーマ　　「生きる力を育む」

福岡こども園サブテーマ　「話そう・聞こう・伝え合おう　～ごっこあそびを通して～」

《保育者の願い》

【乳児】
- 自分の気持ちを身振りや表情、言葉などで素直に表現してほしい。
- 保育者や友達と関わり合う中で、一緒に遊ぶ楽しさを味わってほしい。
- 「かして」や「いいよ」など、簡単なやり取りを行いながら友達と一緒に遊べるようになってほしい。

【幼児】
- 友達と一緒に遊ぶ中で、自分の思いを言葉にして伝えたり、相手にも思いがあることに気付いたりしてほしい。
- 自分たちで考えたり、友達と思いを伝え合ったりしながら遊びを進められるようになってほしい。
- ごっこ遊びを通して、異年齢で関わる楽しさを感じてほしい。

昨年度の反省・保育者の願いを踏まえてサブテーマを決定

話そう・聞こう・伝え合おう　～ごっこあそびを通して～

《仮説》○保育者が子どもの思いに寄り添ったり、子どもが発する言葉をじっくりと聞いたりすることで、安心して自分を表現することができるのではないか。
○友達同士で話し合ったり、一日を振り返ったりする機会を作ることで、自分の思いを伝えたり、相手の考えを聞いたりすることができるのではないか。
○ごっこあそびに取り組む中で、自分とは違う思いを持つ友達がいることに気付いたり、友達のよさに気付いたりすることができるのではないか。

《手立て》

【保育者の援助】
- 一人一人の思いを受け止めながら、信頼関係を築いていき、自分の思いを表現していけるようにする。
- 子どもの姿から興味関心を探り、ごっこ遊びへと繋げていく。
- 話し合いの場を作る中で、友達の思いを否定せずに違う考えもあることに気付けるようにする。
- ごっこ遊びから異年齢交流へとつながるように、職員間で共有し、連携を図っていく。

【環境構成】
- 遊びの展開に合わせて、必要な材料や素材、道具を用意し、子どものイメージが実現できるようにする。
- 一日の出来事や遊び等の振り返りができる時間を設け、友達と伝え合う場を作っていく。
- ごっこ遊びを通して異年齢交流ができるようにする。
- ポートフォリオを活用し、子どもの姿を保育者や保護者に知らせていく。

【研究方法】
- 期ごとに職員間で話し合いの場を持ち、意見を交わして、共通理解を図る。
- ポートフォリオや写真等を活用して、子どもの姿を捉え、子どもの成長や課題点を見つけ、次の保育に生かしていく。
- 巡回指導での助言を基に、反省、改善点を話し合ったり、保育を振り返ったりし、課題の見直しをしていく。

《園内研究の経過》

☆サブテーマ「話そう・聞こう・伝え合おう～ごっこあそびを通して～」を念頭に置き、定期的に園内研究を実践してきた。

回	実施日	内　　容	
1	4月25日（月）	クラスの実態についての話し合い 昨年度の反省から園内研究サブテーマ決定	・昨年度の課題を踏まえ、各年齢の子どもの実態を話し合い、今年度のサブテーマを決定する。 ・各年齢で保育者の願い・手立てについて考えた上で話し合い、園内研究計画を作成し、共有した。
2	4月28日（木）	各年齢の保育者の願い・手立て　提出	
3	5月　6日（金）	園内研究計画完成	
4	6月21日（火）	ポートフォリオを活用して意見交換①	・ポートフォリオを通して、遊びの設定、子どもの姿、保育者の援助などについて自由に意見交換をする。各クラスの子どもの実態について情報交換を行った。 （3グループに分かれて行う）
5	6月27日（月）	〃　②	
6	6月29日（水）	〃　③	
7	7月　1日（金）	第1回石井先生巡回指導 巡回指導後、保育の振り返り	・指導を受け、保育の振り返り、各年齢の良かった点、反省、改善点を確認する。
8	10月25日（火）	ポートフォリオを活用して意見交換①	・ごっこ遊びに繋がった経緯、子どもの姿、保育者の環境構成などについて自由に意見交換する。 （3グループに分かれて行う）
9	10月26日（水）	〃　②	
10	10月31日（月）	〃　③	
11	12月12日（月）	ごっこ遊びを通して、良かった点、困った点、課題点について討論する①	・サブテーマに沿って、ごっこ遊びを行ってきた上で困った点、課題点などについて話をしたり、聞いたりし、伝え合えるようにした。様々な意見があることを知り、今後の保育に活かせるようにした。
12	12月14日（水）	〃　②	
13	12月16日（金）	〃　③	
14	1月30日（月）	第2回石井先生巡回指導 巡回指導後、保育の振り返り	・巡回指導を受けての保育の振り返りをしたり、子どもの成長した姿や行事に向けての取り組み方、保育者の援助方法などについて共通理解を図ったりした。
15	2月10日（金）	各年齢の1年間の成果と今後の課題、園全体での反省、課題について話し合い 園内研究まとめの作成	・各年齢の成果と課題と園全体の成果と課題について話し合いを行った。1年間の保育を振り返ったり、保育者の援助、研究方法などについて意見交換をしたりした。今回の研究の成果と課題を基に、来年度の園内研究に生かしていく。

●第１回巡回指導を受けて（７月１日）

【０・１歳児】
・一対一で絵本を読む時間が大切である。
・年上児の真似をして遊ぶ姿を認めていく。異年齢交流が大切である。
【２歳児】
・髪の毛に洗濯バサミをつけて遊んでいるため、美容院ごっこに展開していくと良い。
・保育者も髪の毛に洗濯バサミをつけて楽しく遊ぶ姿が良かった。
・女児が多いが、男児が興味を持てるような遊びもだすと良い。
・おやつの流れが自然な流れで主体的に行っていて良い。
【３歳児】
・３つ程のコーナー分けがされていて子どもが選択して遊べる環境で良かった。
・絵本コーナーにソファがあり、くつろげる場所があって良かった。
【４歳児】
・絵カード、イラストを使って生活の流れを知らせるのは良かった。今後は、困っていること、嫌なことを伝えるようなカードを貼っておくと良い。
・マイナスのサインに過剰に反応せず、良い所を褒めていくようにする。
【５歳児】
・水族館ごっこでは、リアルを追求していくことが大切である。
・保育者は共同作業者にならず、子どもたち自身で考えていくことが必要。
・素材をセットし過ぎてもみんな同じものを作っていってしまう。子どもたち自身が工夫したり、考えたりして作っていくことが大切である。

●第２回巡回指導（１月３０日）　⇩　助言を受けての変化（〇）　今後の課題（☆）

【０・１歳児】
☆子どもの様子を見て、更に難しい玩具などを用意すると、遊びが広がるのではないか。
【２歳児】
〇消防車、救急車など、素敵な環境を用意して消防士ごっこや病院ごっこなどに展開していて良かった。
☆日なたの暖かい場所でおやつを食べ、遊びが途切れないようにしているのは良い。おやつを食べる時、カフェのような環境を作り、ごっこ遊びに発展させても良い。
【３歳児】
☆生活の積み重ねから、自分でおしぼりをしぼれていて良かった。子どもたち自身で机を拭いたり、掃除をしたりとお手伝いを任せてみても良いのではないか。
【４歳児】
〇子どもの思いを受け止めたり、良いこと悪いことを伝えたり、小さいことでも認めたり、褒めたりしたことで子ども達の成長が見られた。
☆子どもの好きなこと（電車の路線図など）を形にしていてやりたいというモチベーションになっている。来年度まで引き続き継続して遊べるようにしていくと良いのではないか。
☆子どもの好きな物を引き出して継続して遊べるようにしていくと良い。
【５歳児】
〇子どもたちで協同して同じものを作ったり、言葉を交わしながらイメージを共有して遊んだりしていて良かった。
☆保育者が即座に必要な素材を出していくアプローチが大切。保育者が遊びが広がるような言葉を言い、子どもたちを刺激していくことが必要。
☆プールの中に氷が張っていた時、「プールの中に入って取れば良い。なんで中に入ってはいけないの?」という問いに、「分からない」と答えた。どうしていけないのか理由を子ども自身で考えられるようにすることが大切。自分で考えられる場面が必要。
【園全体】
☆どのような援助を行ったら成長に繋がったのかなど、上手くいったことを話し合うことでお互いの学びになる。
☆発表会では、日頃の遊びを披露するが、ステージに立つとやらせになってしまう。行事のありかたについて園全体で考えていく必要がある。

●各年齢での研究の成果と今後の課題

	成果	今後の課題
0・1歳児	・保育者がモデルとなり、ままごとやジュース屋さん遊びを行い、他児との関わりを楽しんだ。また、年上児がホールや部屋で開いたお店屋さんに遊びに行くことで、異年齢との関わりをもつことができた。 ・保育者と１対１での関わりの中で信頼関係を築くことができ、他児の名前や保育者の声掛け、やりとりを覚えたり、真似したりして遊ぶことを楽しめたと思う。	・年上児などの雰囲気に慣れるよう、保育者が仲立ちとなり、異年齢の関わりをもつことができるようにしていきたい。 ・少しずつ自分の気持ちが出てきて、身振りや表情で思いを伝える姿も増えてきた一方で、押す、叩く、物を取るといった行動も見られるため、代弁したり、思いの伝え方を知らせたりしていきたい。
2歳児	・子どもが興味をもっていることを見逃さず、必要な環境を整えながら、ごっこ遊びにつなげたことで、遊びへの意欲が高まり、“もっとこうしたい”“これがやりたい”と自分の思いを表せるようになっている。 ・やりたい遊びが存分にできること、自分の姿や思いを受け入れてもらえたことで、安心して自分を表現できるようになった。 ・その時々で変わる興味に柔軟に対応したことで遊びが広がり、様々なごっこ遊びを通して友達との関わり、やりとりが盛んになっている。 ・幼児組のごっこ遊びに参加したことで親しみや憧れをもつきっかけとなり異年齢交流も抵抗なく楽しむことができた。	・子どもの姿や遊びの展開に応じて、必要な環境を整えていくとともに、その都度職員間で話し合い、共通理解のもと働きかけや環境の見直しが必要である。 ・その子なりの遊びの楽しみ方を認めつつも、遊びのルールや善悪の区別、友達との関わり方等、根気よく丁寧に知らせ、メリハリのある働きかけが必要である。 ・何気ない一言で友達とトラブルになることも多いので、その都度個々の様子に応じて仲立ちし、相手に自分の思いを伝える手立てを知らせながら、友達と関わることの楽しさや心地よさを味わえるようにしていく。
3歳児	・子どもの様子を捉えてごっこ遊びを展開したことで、「こうしよう」と自分の思いを伝えたり、言葉のやり取りを交わしたり、イメージを広げたりして遊ぶことができるようになってきた。 ・一人一人の思いを受け止め、自分の思いを言葉で伝える大切さを知らせていったことで、少しずつ自分の思いを言葉で伝えようとする子が増えた。 ・年上児のごっこ遊びに参加して良い刺激をもらい、自分たちもやってみたいと意欲を持って遊ぶことができていた。	・自分の思いばかりを通そうとするのではなく、友達にも思いがあることに気付けるように仲立ちしたり、代弁したり、その都度必要な言葉を知らせたりすることが必要である。 ・積極的に異年齢交流ができるように場を設定していき、年上児の遊びから良い刺激をもらい、自分達もやってみたいと感じながら、異年齢交流を楽しめるようにする。
4歳児	・子どもの興味を探り、ごっこ遊びの場をもつことで、友達や他学年との関わりが増えるきっかけになった。年長児と遊びを共有する中で、憧れの気持ちや挑戦意欲が育ったり、言葉のやり取りを学んだりしていった。 ・様々な感情体験をする中で、保育者が気持ちに寄り添ったり、代弁したりすることで、自分の思いを表現しようとする姿が見られるようになり、少しずつ言葉で伝えることや相手の話を聞くことができるようになってきた。	・思いや考えが伝わらず、遊びが続かなかったり、手が出たりすることがあるので、引き続き子どもの気持ちをくみ取り、言葉にして伝えていくようにしたり、相手の気持ちに気付けるようにしたり、一人一人に合わせた援助をしていきたい。 ・個人差が大きいので、今後も保育者の援助、声掛け、場の設定の工夫が必要である。
5歳児	・最初の頃は話し合いが成り立たない事も多かったが、回数を重ねていくうちに、自分の思いを言葉にする事、相手の話を聞く事が身につき、話し合いが成り立つようになった。 ・ごっこ遊びをしていく中で、異年齢児との関わりが増え、自分より小さな友達に対して思いやりを持って接する姿が見られた。	・皆と違う意見を持つ子の話を詳しく聞き、より多くの意見の中から互いに折り合いをつけたり、アイディアを出し合ってクラスで１つの答えを出す経験ができるようにしたりしていきたい。 ・保育者も子どもと一緒に他クラスへ遊びに行く等し、普段の遊びも異年齢で楽しんだり、年下の子から頼られる機会を増やしていきたい。

【1】 保育の実施運営・体制全般等に係る観点からの評価

●子どもの最善の利益の考慮 ●組織としての基盤の整備 ●社会的責任の遂行 ●健康及び安全の管理 ●職員の資質向上	子どもの気持ちに寄り添い、一人一人の個性を受け入れて理解することを大切にし、それぞれの家庭環境や育ちに応じた関わりや、適切な援助をすることを、園全体で共通理解してきた。又、昨今の保育施設による不適切な保育という事件を機に、人権擁護のためのチェックリストを用いて自らの保育を振り返り、子どもの人権について職員一人一人が、再認識できるようにした。 園内研究での事例検討は、身近な保育の場面から、職員それぞれの気づきや反省等、意見を交わしたことで、一人一人の保育への思いが広がり、資質向上に繋がった。

【2】 計画に基づく評価

●全体的な計画 ●指導計画 ●週日案 ●学級経営案	市内共通カリキュラムを活用し、園の子どもの実態を捉えながら、計画を作成した。目標・計画をしっかり理解して保育にあたり、その時の子どもの状態を見て柔軟に環境を再構成したり、記録を残し振り返りをしたりすることで次に活かせるようにした。 園内研究のテーマに沿ったねらいを保育に盛り込むことで、明確な意図を持って保育を行うことができた。「ごっこ遊び」を主にした保育の中で、クラス内だけでなく、異年齢交流の機会が増え、互いに刺激を受け合い、子どもの変化、成長を感じることが出来た。

【3】 家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点からの評価

●入所する子どもの家庭との連携と子育て支援 ●地域の保護者に対する子育て支援 ●地域における連携交流	新型コロナウイルスの状況に応じて、実施できなかった行事もあるが、実施方法を検討しながら保護者会と連携し、できることはなるべく実施していった。又、クラスボードやポートフォリオを通して、園での子どもの姿や成長の様子、保育の意図等、可視化して分かり易く伝え、保護者と共有した。園庭開放の実施はできなかったが電話相談の日を設け、地域の子育て支援に繋がるようにした。地域の「おひさまの家・おひさま文庫」との交流を続け、絵本の貸し出しを受けたり、絵画展の見学、畑を借用しサツマイモを収穫、麦の種まき・収穫体験に参加した。

●研究のまとめ

昨年度の課題やクラスの実態を話し合う中で、昨年度に引き続き、自分の思いを表現したり、相手にも思いがあることに気付いたり、相手の話に耳を傾けたりしてほしいという意見が多く出た。そのため、今年度は人との関わりの中で、話す・聞く・伝え合う経験ができるごっこ遊びに焦点を絞って研究を行った。グループに分かれて、ポートフォリオを活用して各クラスのごっこ遊びの様子を共有したり、困ったこと、良かったことなどについて意見交換をしたりして共通理解を図ってきた。

ごっこ遊びにテーマを絞ったことで、子どもの興味に合わせた環境や場の設定、働きかけ、保育者間の連携などを意識して行うことができた。子どもの興味をごっこ遊びに繋げていったことで、“やってみたい”“こうしたい”と自分の思いを表すきっかけとなった。また、ごっこ遊びをする中で、友達や異年齢児との関わりが増え、言葉のやり取りを楽しんだり、人と関わる楽しさや心地よさを味わったり、自分とは違う考えや遊び方があることに気付き、友達の思いにも耳を傾けたりすることができたのではないかと思う。特に年長児は、話し合いを多く取り入れる中で、子ども自身で考えて遊びを進めたり、自分とは違う考えを認めたりしていくことができ、子ども自身で遊びを作っていく力が身に付いたと思う。保育者が子どもの思いに寄り添って話を聞いたり、その都度必要な言葉や友達との関わり方を知らせたりしたことで、自分の思いを伝えたり、友達の思いに気付いたりすることに繋がった。改めて、安心して自分の思いを伝えるためには、保育者が子どもの思いに寄り添い、子どもと向き合って話を聞くことが大切だと実感した。言葉のやり取り、表現の仕方は各年齢や子ども一人一人によって違うため、子どもに応じた援助をするように今後も心掛けていきたい。

ごっこ遊びを通して、年長児の遊びを年中児が、年中児の遊びを年少児が刺激を受け、一緒に楽しんだことで遊びが広がっていった。年下児に対する思いやり、年上児に対する憧れ、“自分も“という挑戦意欲を持ち、異年齢交流の機会を多く持つことができた。保育者間での連携を大切にして異年齢交流を行ってきたことで、横のつながりが深まったと感じる。

昨年度、今年度に続き、自分の思いを表現することをテーマにしてきたため、次年度はまた違った視点でテーマを考えていければと思う。今後も園内研究を行う中で、自分の保育や子どもとの関わり方などを見直し、質の高い保育を目指していきたい。